

第 5 次亘理町総合発展計画及び
国土利用計画策定に関する
アンケート調査結果

平成 26 年 10 月

目 次

1 調査の概要	1
(1) 目 的	1
(2) 調査方法	1
(3) 配布・回収状況	1
 2 集計結果	2
(1) 回答者の属性	2
(2) 亙理町の生活環境に対する評価	5
(3) 亙理町のこれからのまちづくり	22
(4) 亙理町の土地利用	32
(5) 自由意見傾向まとめ	35

1 調査の概要

(1) 目 的

このアンケート調査は、第5次亶理町総合発展計画及び国土利用計画の策定にあたり、「亶理町的生活環境に対する評価」と「これからのまちづくり」、また、「亶理町の土地利用」に関する町民の皆様方の意見・意向を把握し、計画に反映させることを目的として実施しました。

(2) 調査方法

- 調査地域：亶理町全域
- 調査対象：亶理町に居住する18歳以上の町民2,000人（無作為抽出）
- 調査方法：調査票を郵送配布、郵送回収
- 調査期間：平成26年7月4日～7月21日まで（7月24日回収分まで）

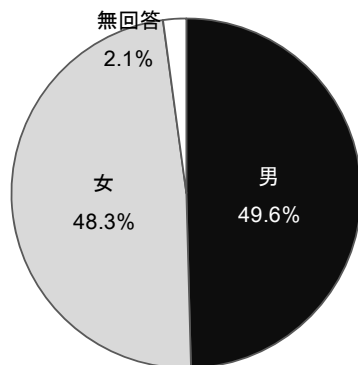
(3) 配布・回収状況

- 回答数 936名
- 回収率 46.8%

2 集計結果

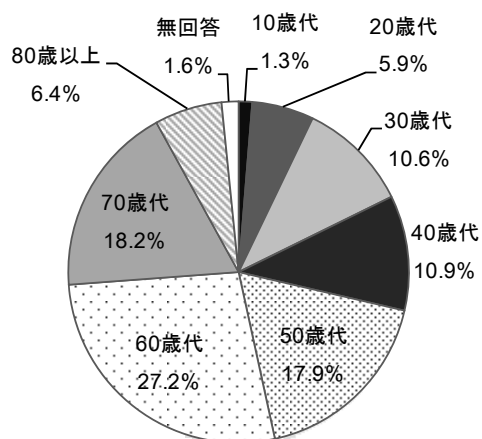
(1) 回答者の属性

Q1-F1 性別



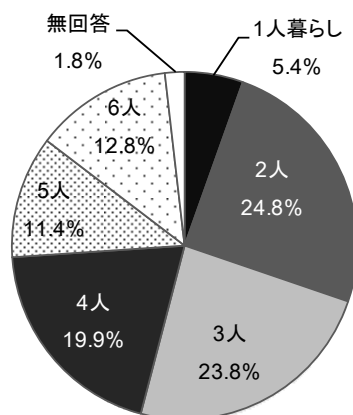
No.	カテゴリー名	n	%
1	男	464	49.6%
2	女	452	48.3%
	無回答	20	2.1%
	全体	936	100.0%

Q1-F2 年齢



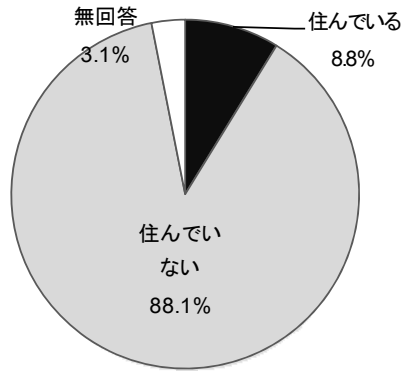
No.	カテゴリー名	n	%
1	10歳代	12	1.3%
2	20歳代	55	5.9%
3	30歳代	99	10.6%
4	40歳代	102	10.9%
5	50歳代	168	17.9%
6	60歳代	255	27.2%
7	70歳代	170	18.2%
8	80歳以上	60	6.4%
	無回答	15	1.6%
	全体	936	100.0%

Q1-F3 家族の人数



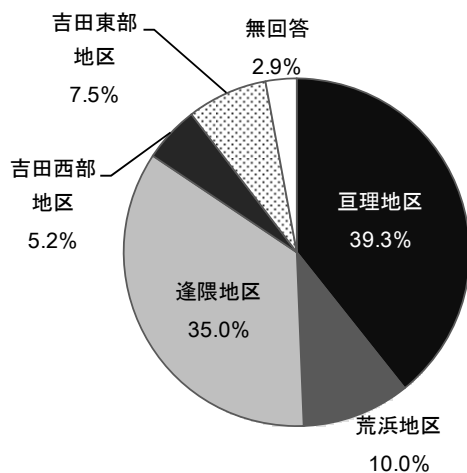
No.	カテゴリー名	n	%
1	1人暮らし	51	5.4%
2	2人	232	24.8%
3	3人	223	23.8%
4	4人	186	19.9%
5	5人	107	11.4%
6	6人	120	12.8%
	無回答	17	1.8%
	全体	936	100.0%

Q1-F4 仮設に住んでいるか



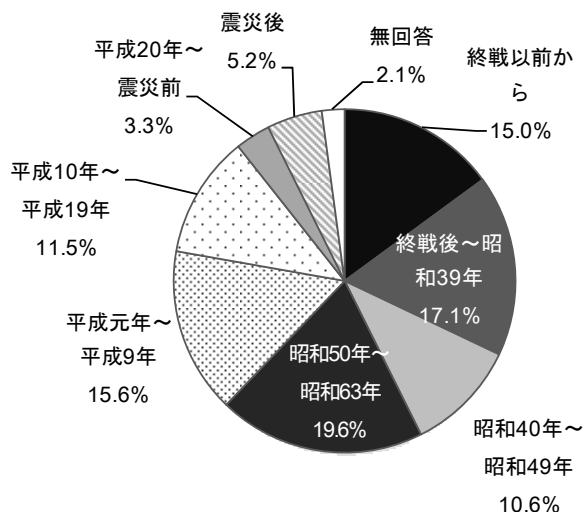
No.	カテゴリー名	n	%
1	住んでいる	82	8.8%
2	住んでいない	825	88.1%
	無回答	29	3.1%
	全体	936	100.0%

Q1-F5 居住地区



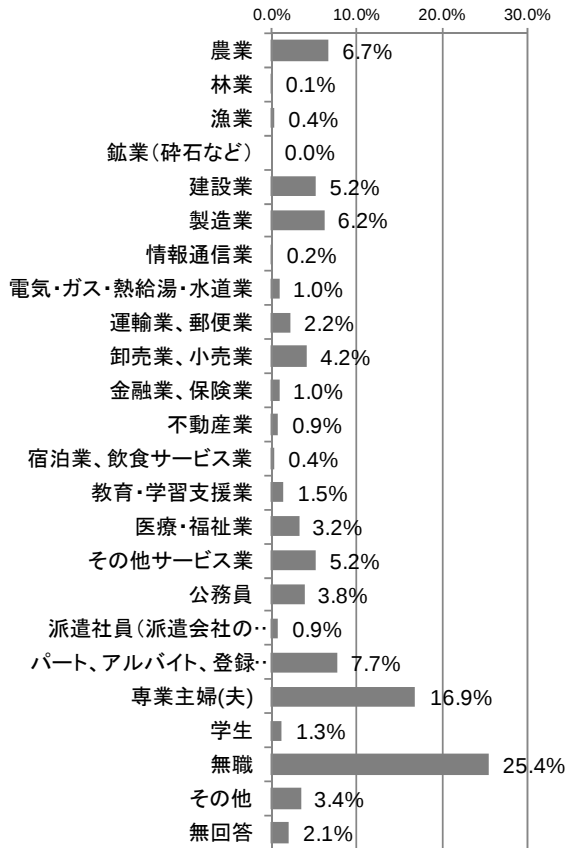
No.	カテゴリー名	n	%
1	亶理地区	368	39.3%
2	荒浜地区	94	10.0%
3	逢隈地区	328	35.0%
4	吉田西部地区	49	5.2%
5	吉田東部地区	70	7.5%
	無回答	27	2.9%
	全体	936	100.0%

Q1-F6 町の居住歴



No.	カテゴリー名	n	%
1	終戦以前から	140	15.0%
2	終戦後～昭和39年	160	17.1%
3	昭和40年～昭和49年	99	10.6%
4	昭和50年～昭和63年	183	19.6%
5	平成元年～平成9年	146	15.6%
6	平成10年～平成19年	108	11.5%
7	平成20年～震災前	31	3.3%
8	震災後	49	5.2%
	無回答	20	2.1%
	全体	936	100.0%

Q1-F7 職業



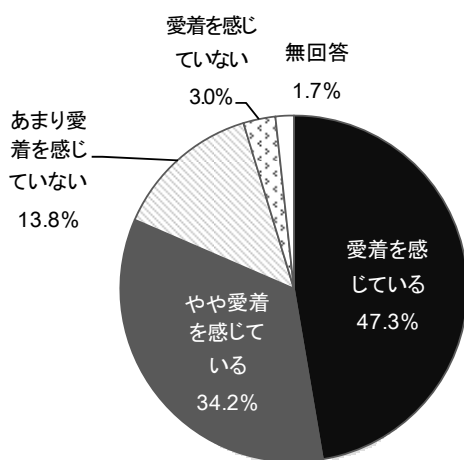
No.	カテゴリー名	n	%
1	農業	63	6.7%
2	林業	1	0.1%
3	漁業	4	0.4%
4	鉱業(砕石など)	0	0.0%
5	建設業	49	5.2%
6	製造業	58	6.2%
7	情報通信業	2	0.2%
8	電気・ガス・熱給湯・水道業	9	1.0%
9	運輸業、郵便業	21	2.2%
10	卸売業、小売業	39	4.2%
11	金融業、保険業	9	1.0%
12	不動産業	8	0.9%
13	宿泊業、飲食サービス業	4	0.4%
14	教育・学習支援業	14	1.5%
15	医療・福祉業	30	3.2%
16	その他サービス業	49	5.2%
17	公務員	36	3.8%
18	派遣社員(派遣会社の正社員)	8	0.9%
19	パート、アルバイト、登録派遣社員	72	7.7%
20	専業主婦(夫)	158	16.9%
21	学生	12	1.3%
22	無職	238	25.4%
23	その他	32	3.4%
	無回答	20	2.1%
	全体	936	100.0%

(2) 亶理町の生活環境に対する評価

Q2 亶理町への愛着

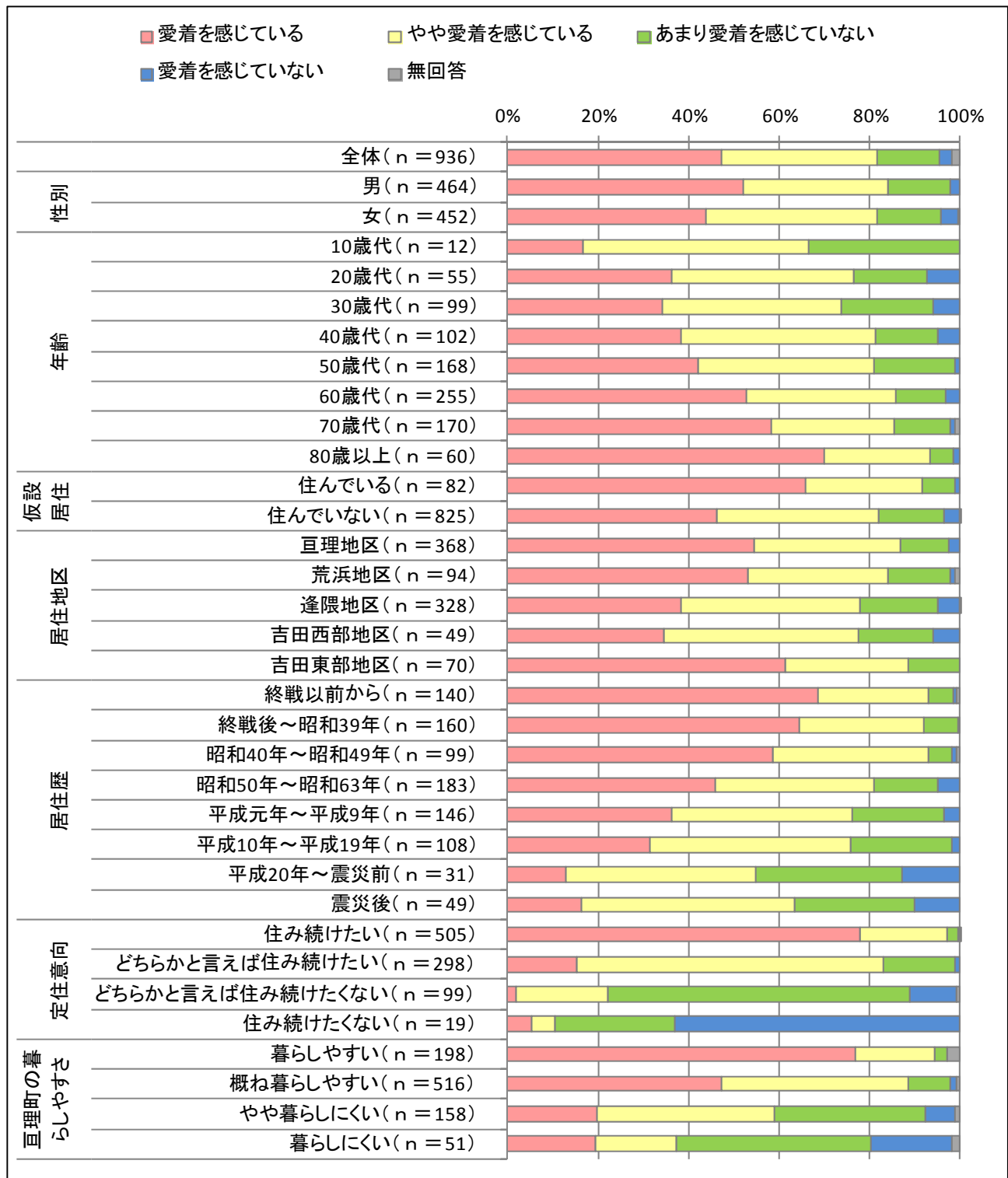
- ◆ 「愛着を感じている」「やや愛着を感じている」の合計は81.5%と8割を超えている。
- ◆ 年齢別にみると年齢が高くなるほど、居住歴でみると居住歴が長くなるほど、また、亶理町の暮らしやすさでみると評価が高いほど、亶理町への愛着が増す傾向が明らかである。
- ◆ 仮設住宅に住んでいる層の方が、いない層に比べて亶理町への愛着は強い。
- ◆ 亶理町に住み続けたい層の愛着は特に強い。
- ◆ 地区別にみると、吉田東部地区で愛着が強く、逢隈地区、吉田西部地区で弱い。

【単純集計】



No.	カテゴリー名	n	%
1	愛着を感じている	443	47.3%
2	やや愛着を感じている	320	34.2%
3	あまり愛着を感じていない	129	13.8%
4	愛着を感じていない	28	3.0%
	無回答	16	1.7%
	全体	936	100.0%

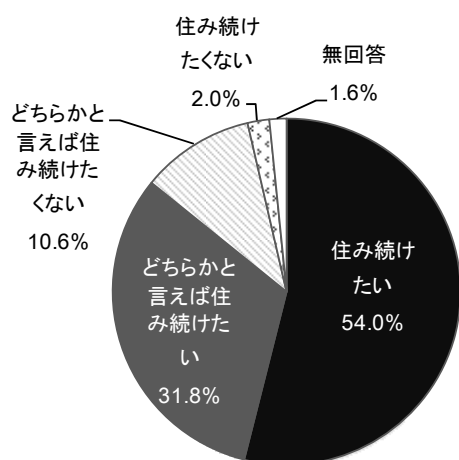
【クロス集計】



Q3 定住意向

- ◆ 「住み続けたい」「どちらかと言えば住み続けたい」の合計は85.8%に達し、「どちらかと言えば住み続けたくない」「住み続けたくない」の合計は12.6%となっている¹。
- ◆ 亘理町への愛着と同様、年齢別にみると年齢が高くなるほど、居住歴でみると居住歴が長くなるほど、また、亘理町の暮らしやすさでみると評価が高いほど、定住意向が高くなる傾向が明らかである。
- ◆ 仮設住宅に住んでいる層の方が、いない層に比べて定住意向は高い。
- ◆ 亘理町に愛着を持っている層の定住意向は特に強い。
- ◆ 地区別にみても亘理町への愛着と同様に、吉田東部地区で定住意向が高く、逢隈地区、吉田西部地区で低い。

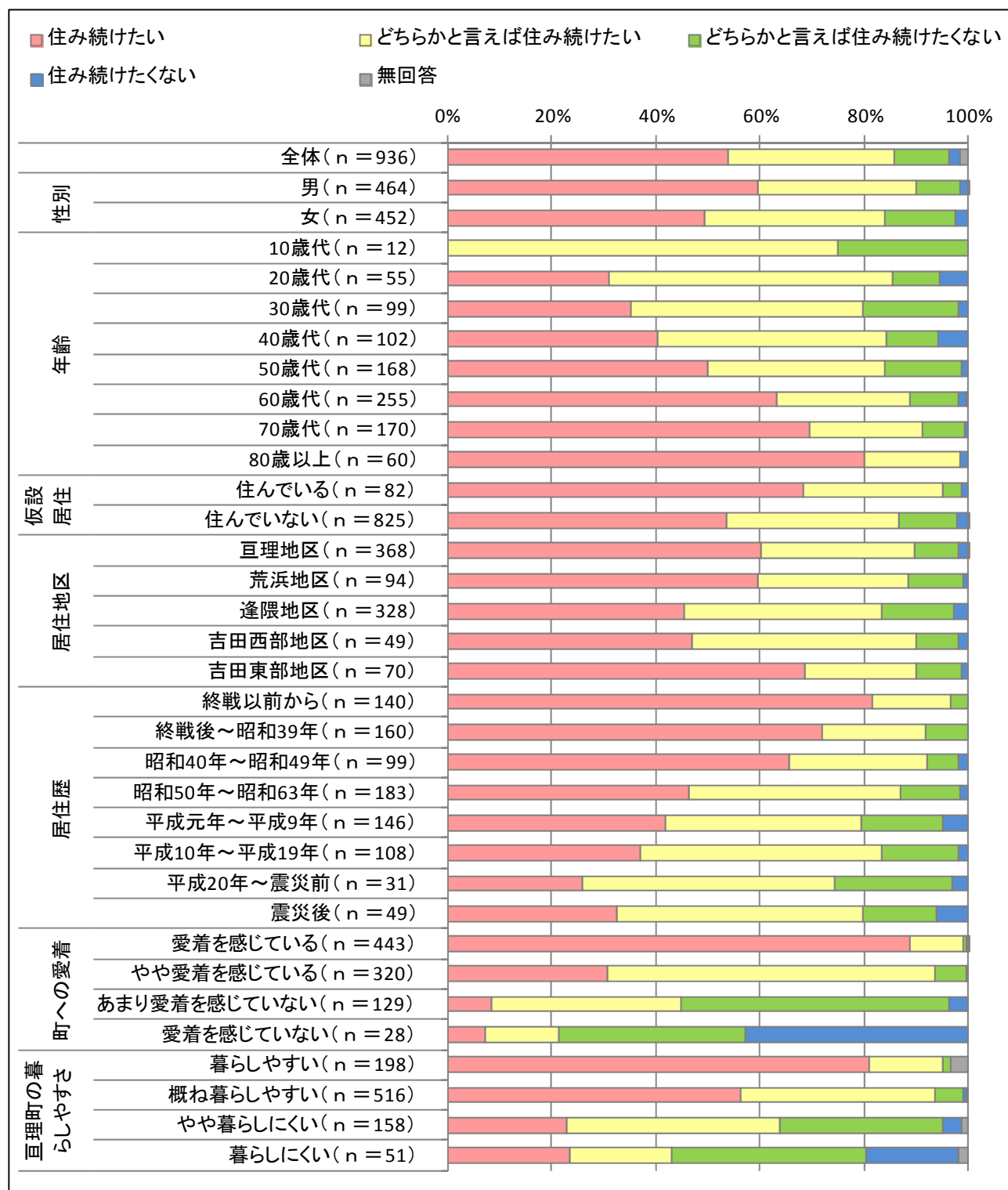
【単純集計】



No.	カテゴリー名	n	%
1	住み続けたい	505	54.0%
2	どちらかと言えば住み続けたい	298	31.8%
3	どちらかと言えば住み続けたくない	99	10.6%
4	住み続けたくない	19	2.0%
	無回答	15	1.6%
	全体	936	100.0%

¹ 平成21年調査では、「ずっと住んでいたい」49.3%、「なるべく住んでいたい」35.1%で合計は84.4%、一方、「できれば移りたい」11.5%、「ぜひ移りたい」1.7%で合計13.2%となっており、全体的な傾向としてはほぼ変化はない。

【クロス集計】

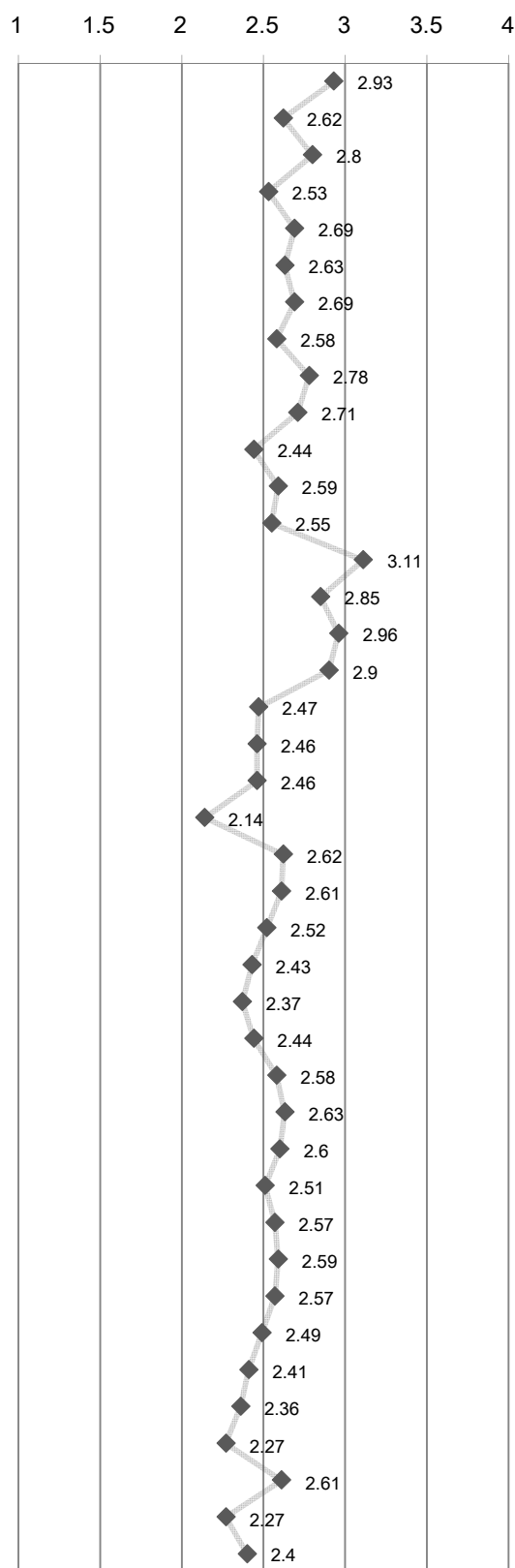


Q4-1 亘理町の生活環境の満足度

- ◆ 「上水道の整備」「下水道等の整備」「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」や「墓地・火葬場の整備」といった主に供給処理に関する項目で満足度が高い。
- ◆ 一方、満足度が低いのは、「公共交通機関の便利さ」「保育・子育て環境」「観光の振興」「働きがいのある職場」や「若者の定住化の促進」などである。
- ◆ 男女別に満足度に大きな違いはないが、女性で「公共交通機関の便利さ」への満足度が低く、産業面で男性の満足度が低い。
- ◆ 10 歳代、20 歳代の満足度は全般的に低く、特に「公共交通機関の便利さ」「働きがいのある職場」「若者の定住化の促進」に関する満足度が低い。ただし、10 歳代はサンプル数が 12 なので注意が必要である（以下の設問に関して同様）。70 歳代、80 歳以上は全般的に満足度が高く、80 歳以上の「高齢者福祉」を除き、すべての項目で満足度は町全体を上回る。60 歳代は町全体とほぼ同様の傾向を示す。30～50 歳代は概ね町全体と同じ傾向を示しつつ、満足度はやや町全体を下回り、特に、「公共交通機関の便利さ」や保健・医療・福祉・子育て関連の項目で満足度が低くなっている。
- ◆ 仮設住宅に住んでいる層と住んでいない層に大きな差異はみられず「公共交通機関の便利さ」で最も満足度が低いが、仮設住宅に住んでいる層は「火災や災害からの安全性」「下水道等の整備」「調和のとれた土地利用」「住宅・宅地の整備」といった項目の満足度が町全体と比較して低くなっている。一方、「人情味や地域の連帯感」「ボランティア活動や NPO 活動」の満足度は高い。
- ◆ 亘理地区は概ね町全体と同様の傾向でありつつ満足度が全般的に高く、特に、「日常の買物の便利さ」の満足度は突出して高くなっている。荒浜地区は逆に満足度が全般的に低く、特に、「公共交通機関の便利さ」で満足度が低いほか、「公園・緑地・広場の整備」「調和のとれた土地利用」「市街地や公共ゾーンの整備」「道路の整備」「観光の振興」「働きがいのある職場」で満足度が低くなっている。逢隈地区は町全体と概ね同様の傾向だが、「日常の買物の便利さ」で町全体より満足度が低い。吉田西部地区及び吉田東部地区では、「下水道等の整備」の満足度が特に低く、その他、吉田西部地区では「保育・子育て環境」、吉田東部地区では「若者の定住化の促進」で満足度が低い。
- ◆ 亘理町に愛着を感じている層の満足度はすべて町全体を上回っており、特に、「情報の提供」「人情味や地域の連帯感」「上水道の整備」「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」「墓地・火葬場の整備」などで満足度が高い。やや愛着を感じている層の満足度はほぼ町全体と同様の傾向である。一方、（あまり）愛着を感じていない層の満足度はすべて町全体を下回り、「公共交通機関の便利さ」をトップに、「働きがいのある職場」「若者の定住化の促進」などで満足度が特に低い。
- ◆ 亘理町への愛着と同様、住み続けたい層の満足度はすべて町全体を上回っており、特に、「情報の提供」「上水道の整備」「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」「墓地・火葬場の整備」などで満足度が高い。どちらかと言えば住み続けたい層の満足度はほぼ町全体と同様の傾向である。一方、（どちらかと言えば）住み続けたくない層の満足度はすべて町全体を下回り、「公共交通機関の便利さ」をトップに、「保健・医療サービスや施設の整備」「観光の振興」「働きがいのある職場」「若者の定住化の促進」などで満足度が特に低い。

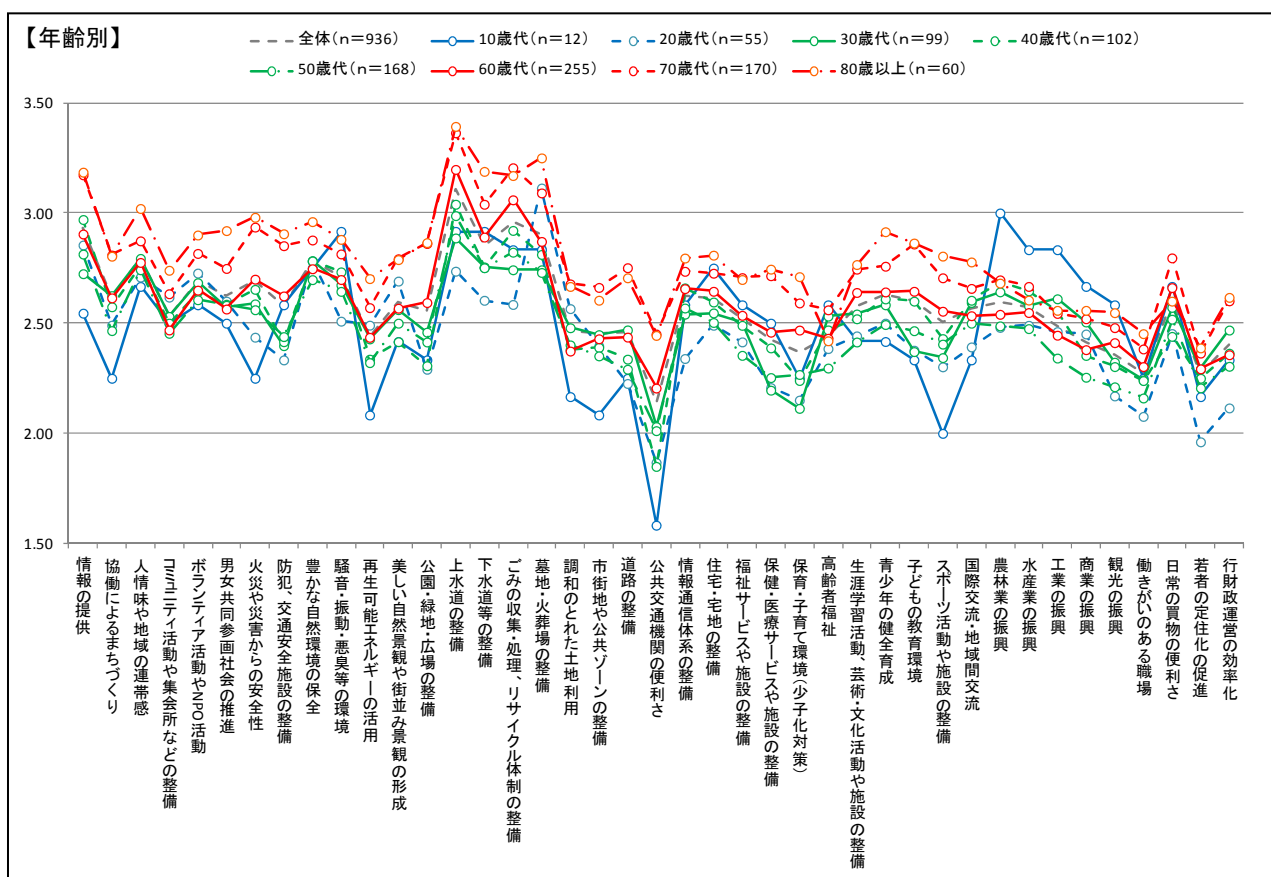
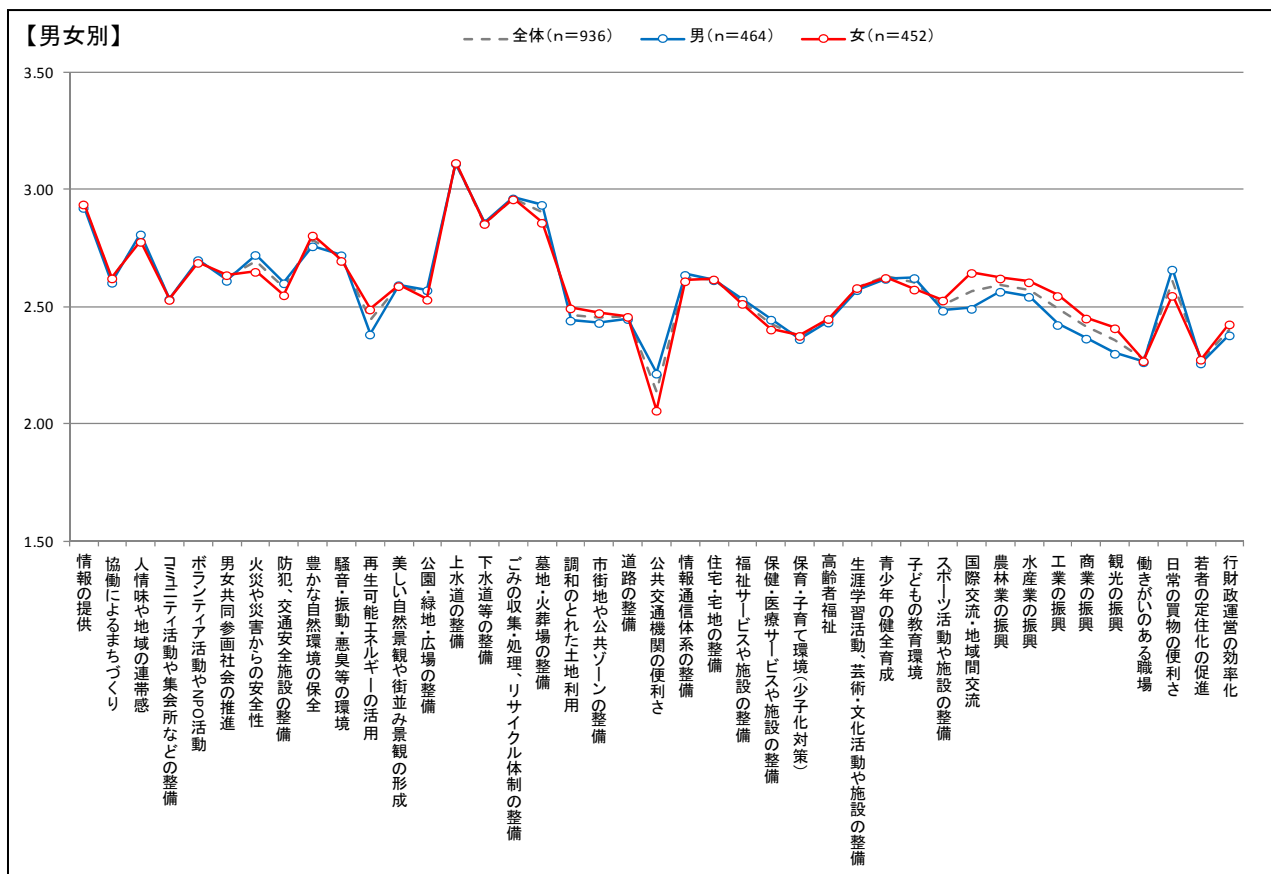
【単純集計】

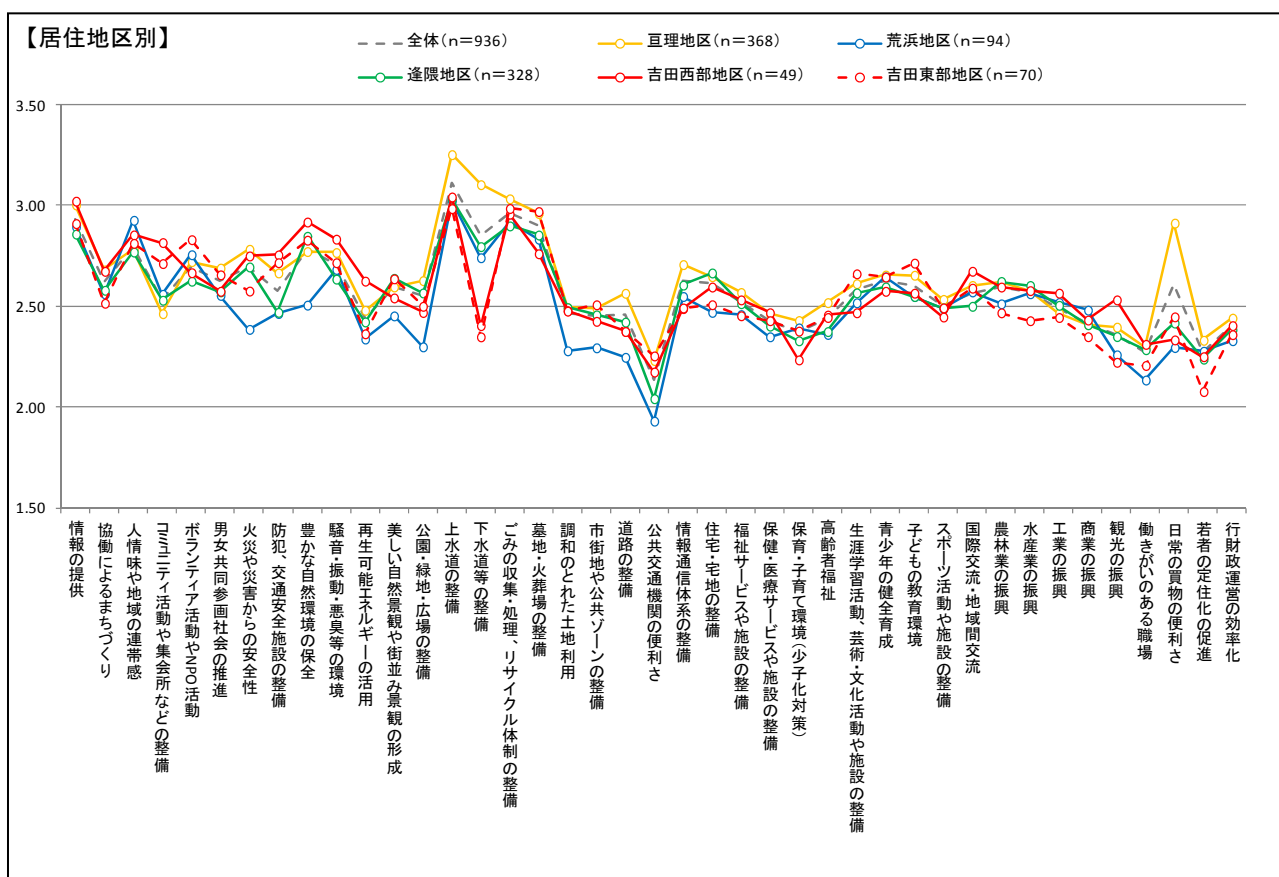
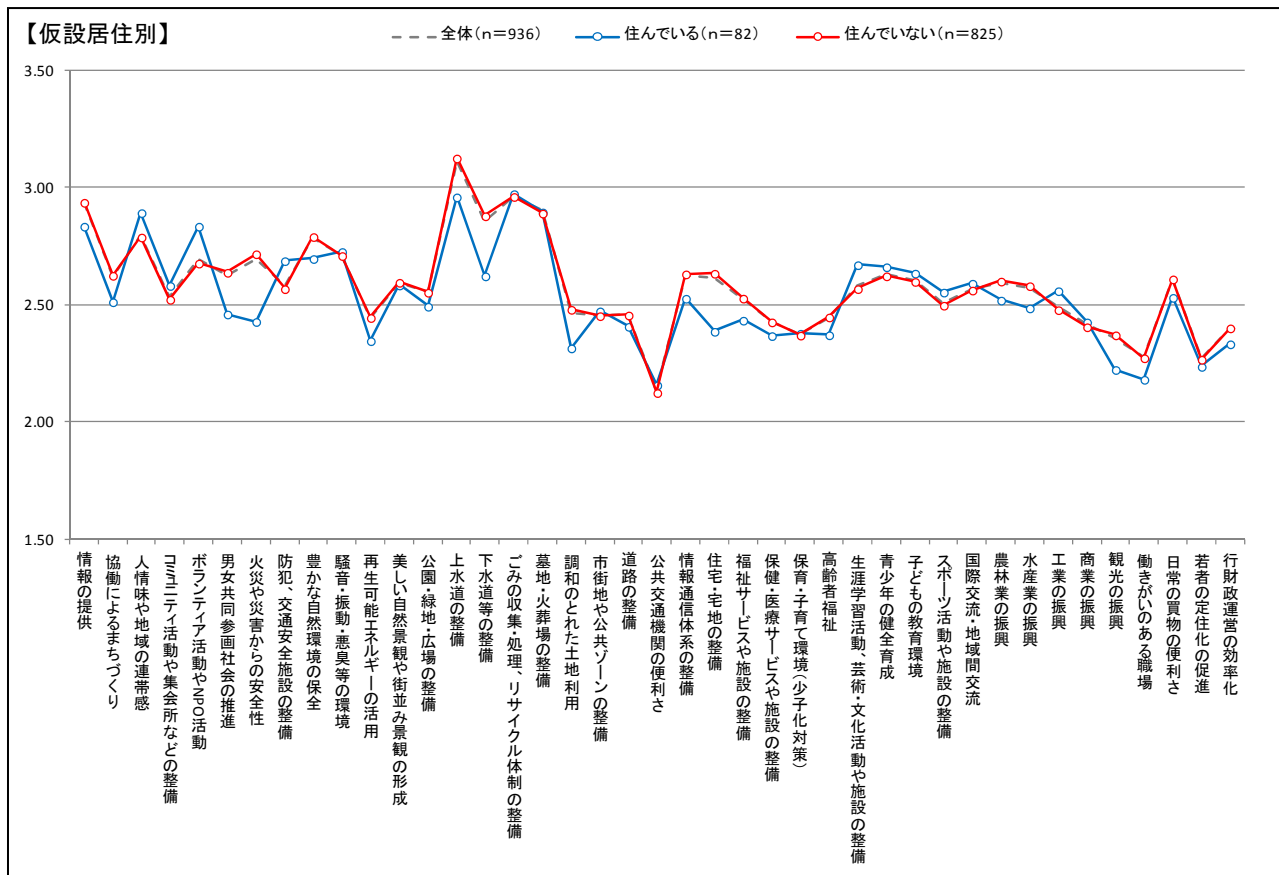
(1)情報の提供	2.93
(2)協働によるまちづくり	2.62
(3)人情味や地域の連帯感	2.80
(4)コミュニティ活動や集会所などの整備	2.53
(5)ボランティア活動やNPO活動	2.69
(6)男女共同参画社会の推進	2.63
(7)火災や災害からの安全性	2.69
(8)防犯、交通安全施設の整備	2.58
(9)豊かな自然環境の保全	2.78
(10)騒音・振動・悪臭等の環境	2.71
(11)再生可能エネルギーの活用	2.44
(12)美しい自然景観や街並み景観の形成	2.59
(13)公園・緑地・広場の整備	2.55
(14)上水道の整備	3.11
(15)下水道等の整備	2.85
(16)ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備	2.96
(17)墓地・火葬場の整備	2.90
(18)調和のとれた土地利用	2.47
(19)市街地や公共ゾーンの整備	2.46
(20)道路の整備	2.46
(21)公共交通機関の便利さ	2.14
(22)情報通信体系の整備	2.62
(23)住宅・宅地の整備	2.61
(24)福祉サービスや施設の整備	2.52
(25)保健・医療サービスや施設の整備	2.43
(26)保育・子育て環境(少子化対策)	2.37
(27)高齢者福祉	2.44
(28)生涯学習活動、芸術・文化活動や施設の整備	2.58
(29)青少年の健全育成	2.63
(30)子どもの教育環境	2.60
(31)スポーツ活動や施設の整備	2.51
(32)国際交流・地域間交流	2.57
(33)農林業の振興	2.59
(34)水産業の振興	2.57
(35)工業の振興	2.49
(36)商業の振興	2.41
(37)観光の振興	2.36
(38)働きがいのある職場	2.27
(39)日常の買物の便利さ	2.61
(40)若者の定住化の促進	2.27
(41)行財政運営の効率化	2.40

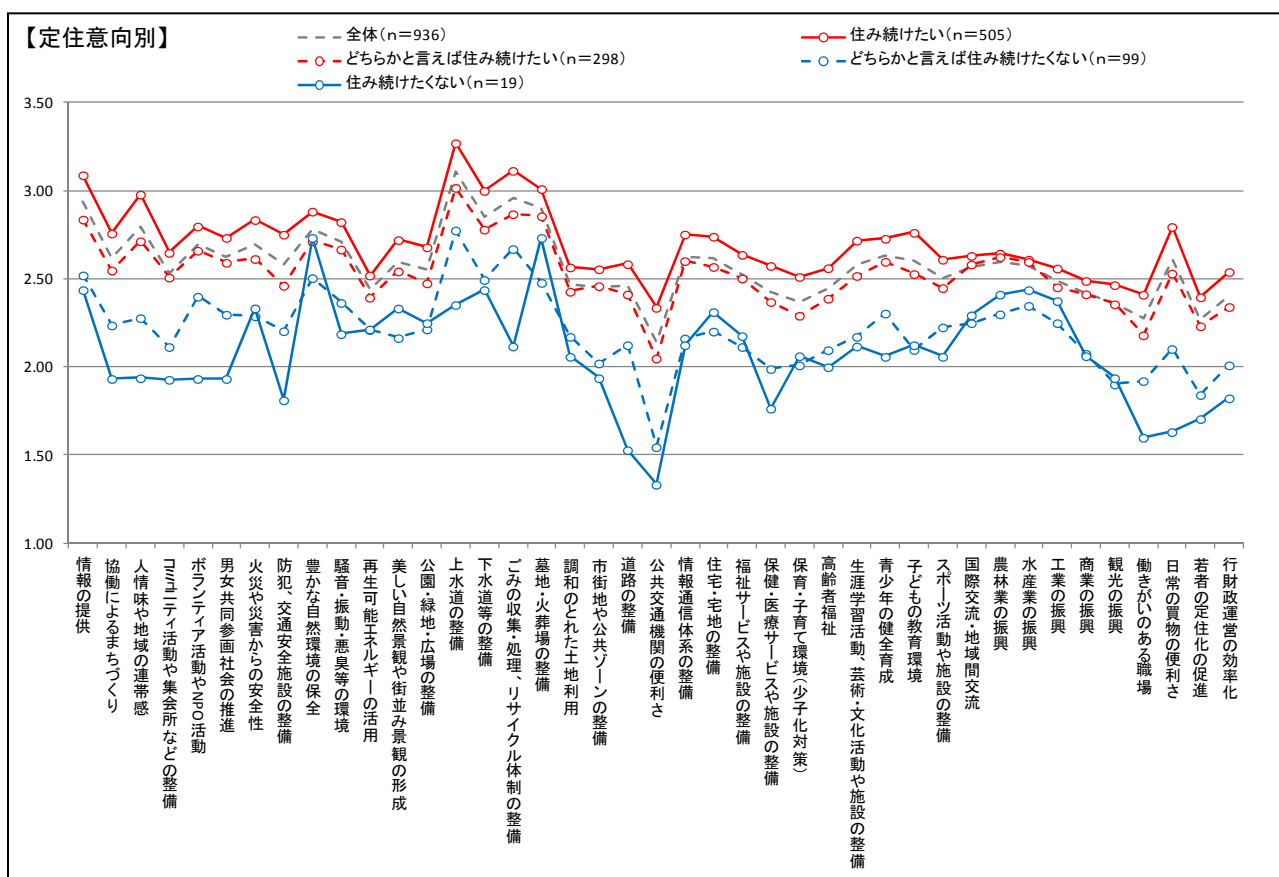
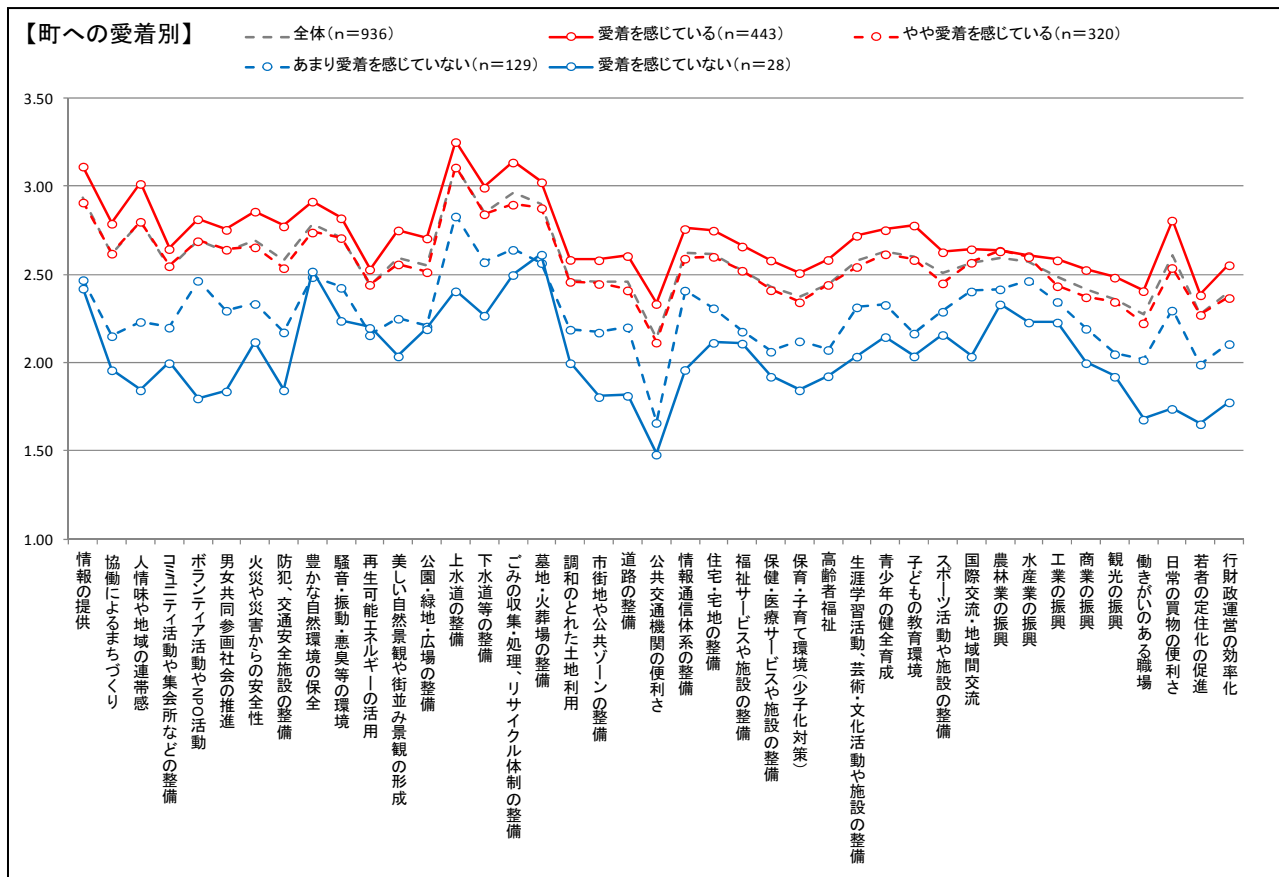


※ (不満×1 点+やや不満×2 点+概ね満足×3 点+満足×4 点) ÷ 回答数とした指数。2.5 を下回ると不満側、2.5 を上回ると満足側である。

【クロス集計】





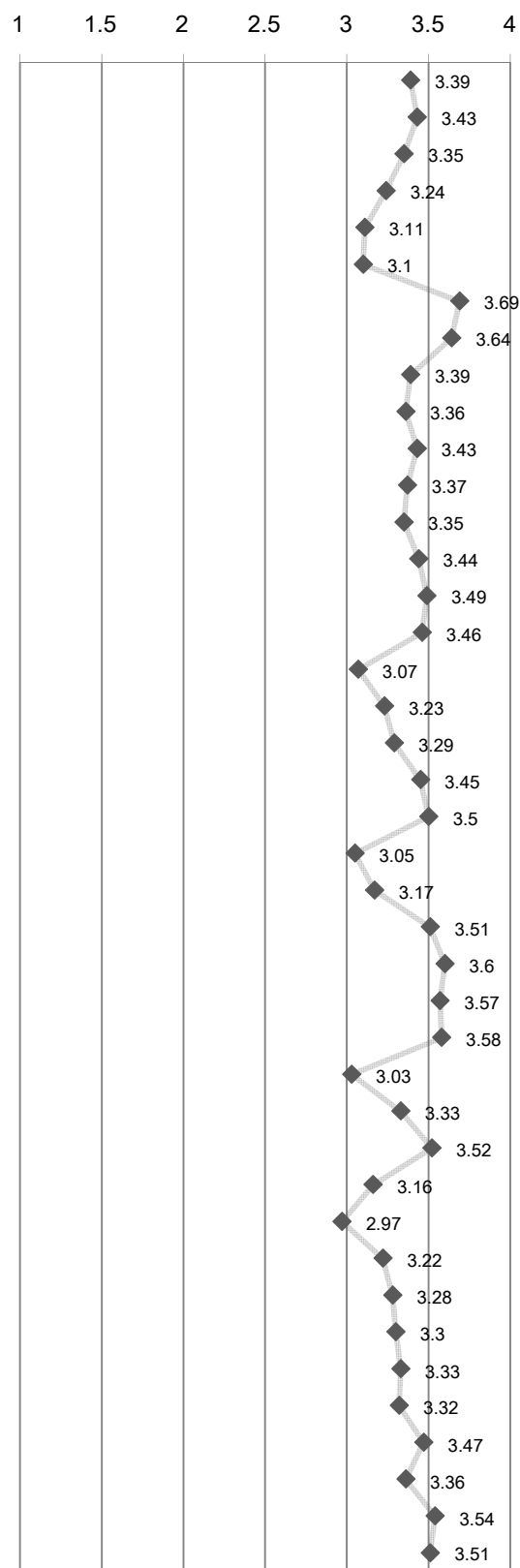


Q4-2 亶理町の生活環境の重要度

- ◆ すべての項目で、今後の施策推進における重要度は高い（平均の 2.5 をすべての項目で上回る）が、特に「火災や災害からの安全性」「防犯、交通安全施設の整備」といった安全に関する項目、「福祉サービスや施設の整備」「保健・医療サービスや施設の整備」「保育・子育て環境（少子化対策）」「高齢者福祉」「子どもの教育環境」といった保健・医療・福祉・子育てに関する項目や「若者の定住化促進」で重要度が高い。
- ◆ 男女別に重要度に大きな違いはない。
- ◆ 10 歳代、20 歳代の満足度は全般的に低かったが、重要度に関しても低い評価にとどまっており、20 歳代で重要度が町全体を上回るのは「防犯、交通安全施設の整備」「公共交通機関の便利さ」「情報通信体系の整備」「働きがいのある職場」「日常の買物の便利さ」などにとどまっている。70 歳代、80 歳以上では全般的に重要度を高く評価しており、特に、安全性、上下水道、保健・医療・福祉関連の項目で重要度が高くなっている。30～60 歳代は概ね町全体と同じ傾向を示し、特に重要度が高く評価されている項目はないが、年代が上がるにつれて重要度を高く評価する傾向がみられる。
- ◆ 仮設住宅に住んでいる層は、町全体と同様の傾向を示しつつ、「再生可能エネルギーの活用」「美しい自然景観や街並み景観の形成」及び産業に関する項目で町全体より重要度を高く評価している。
- ◆ 亶理地区の重要度は町全体と概ね同様の傾向を示す。荒浜地区は全般的に町全体より重要度が高く評価されており、特に、安全性、道路・公共交通、保健・医療・福祉・子育てに関する項目の重要度が高くなっている。逢隈地区は町全体に比較して重要度はやや低く評価されているが、全体的な傾向は町全体と同じである。吉田西部地区及び吉田東部地区では、安全性や保健・医療・福祉・子育てに関連する項目、「若者の定住化の促進」などを始め町全体より重要度がかなり高く評価されている。
- ◆ 亶理町に愛着を感じている層の重要度はほとんどの項目で町全体を上回りつつ、町全体と同様の傾向を示す。逆に、やや愛着を感じている層及びあまり愛着を感じていない層の重要度はほぼ町全体を下回りつつ、町全体と同様の傾向を示す。愛着を感じていない層は、安全性、上下水道、公共交通機関、保健・医療・福祉関連の項目で重要性を高く評価している。
- ◆ 亶理町への愛着と同様、住み続けたい層の重要度はほとんどの項目で町全体を上回りつつ、町全体と同様の傾向を示す。逆に、どちらかと言えば住み続けたい層及びどちらかと言えば住み続けたくない層の重要度はほぼ町全体を下回りつつ、町全体と同様の傾向を示す。住み続けたくない層の重要度で突出して高いのは、「公共交通機関の便利さ」「日常の買物の便利さ」で「行財政運営の効率化」の重要度も高くなっている。

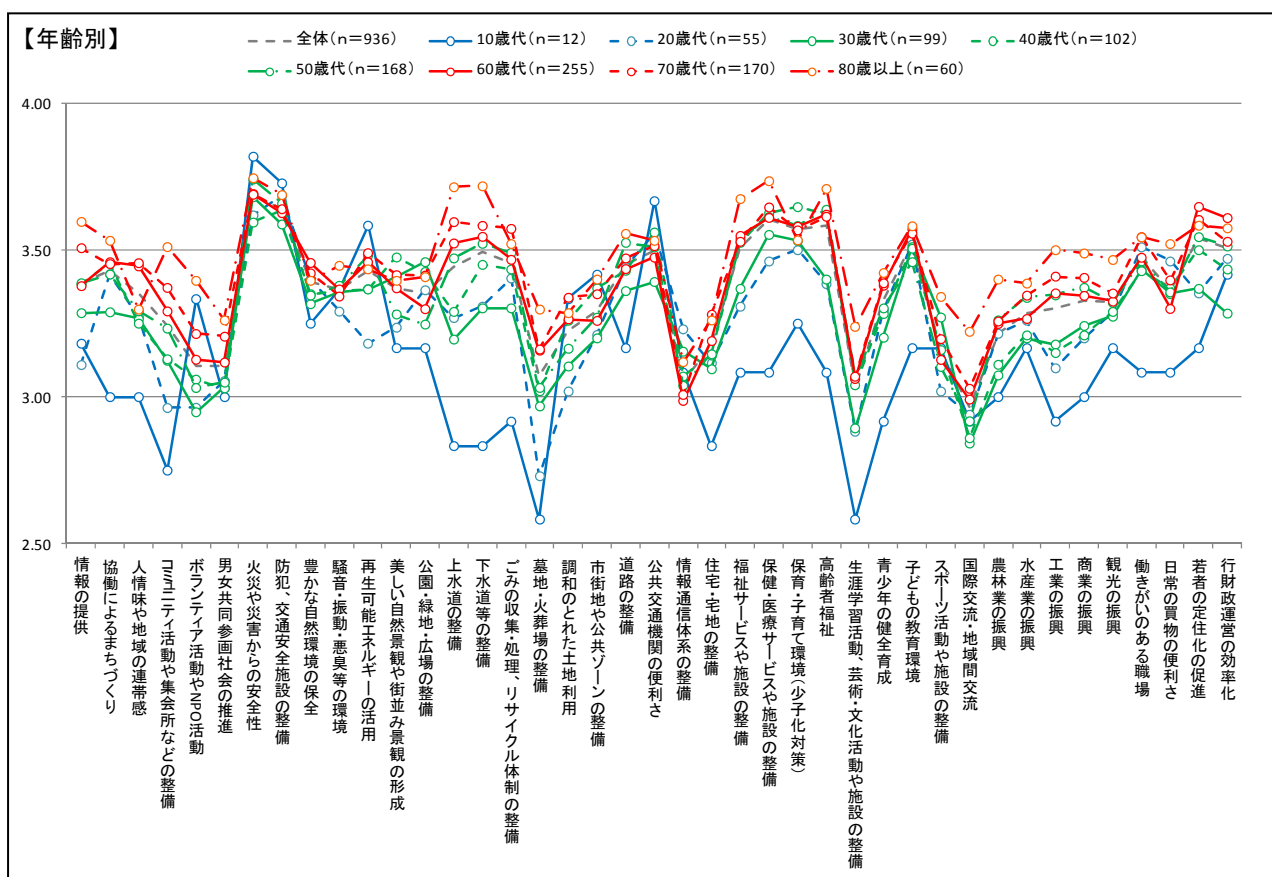
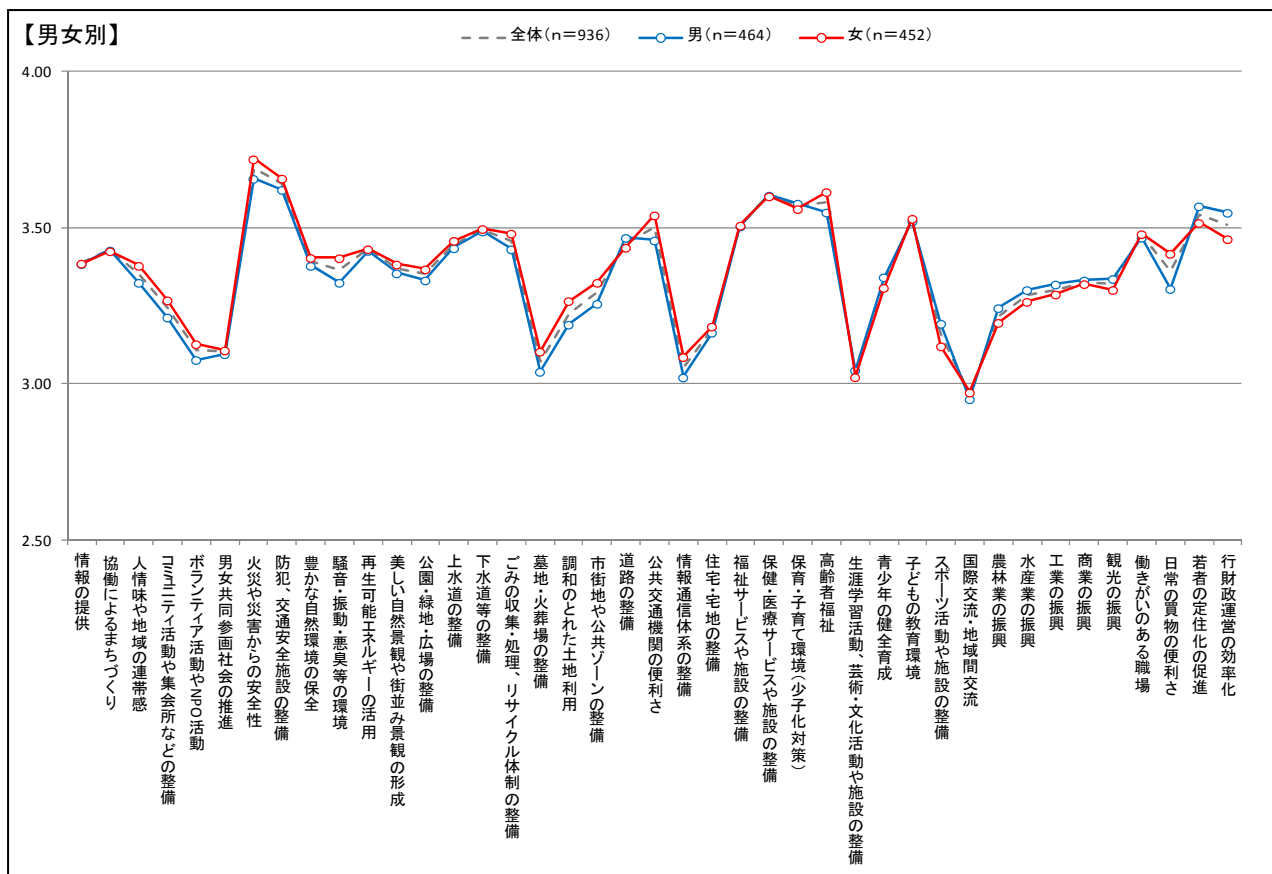
【単純集計】

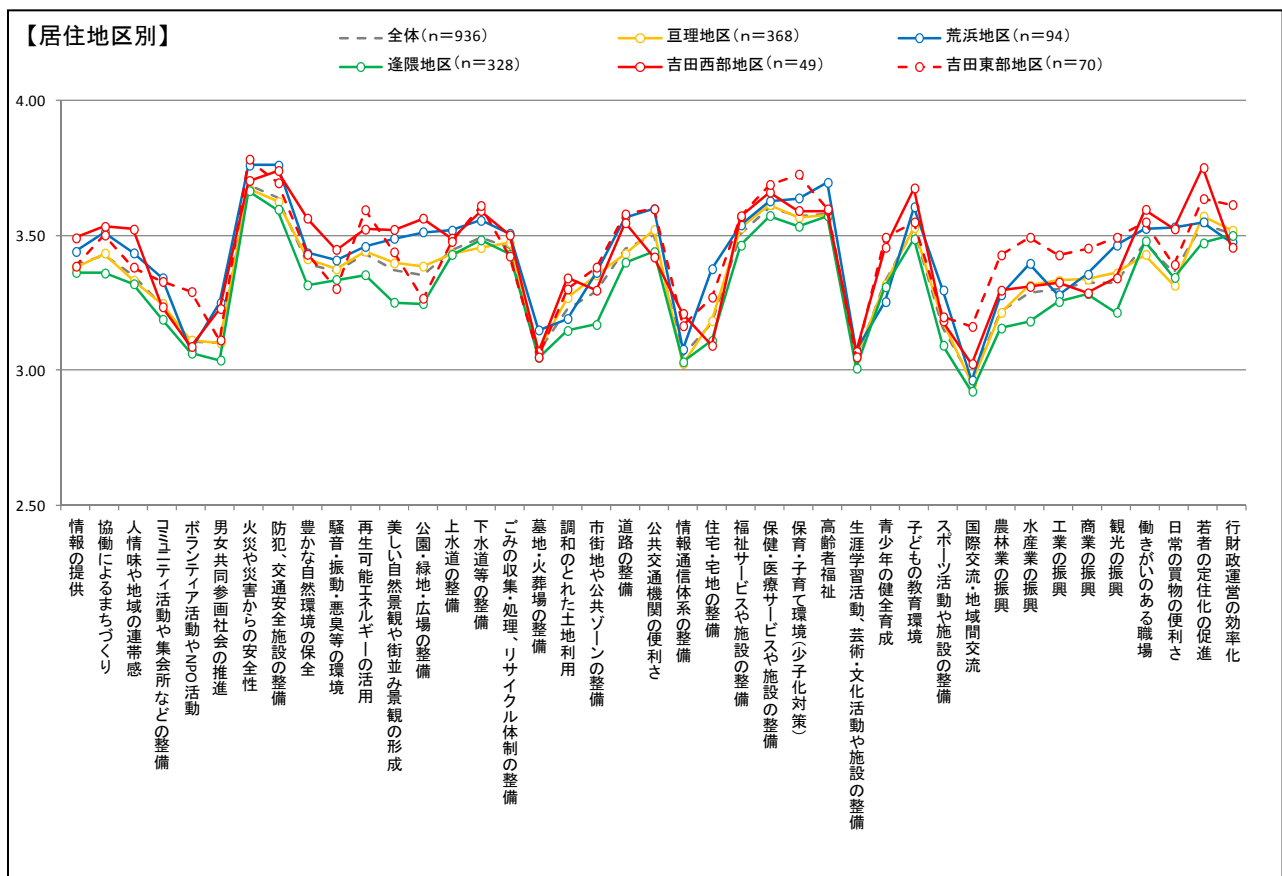
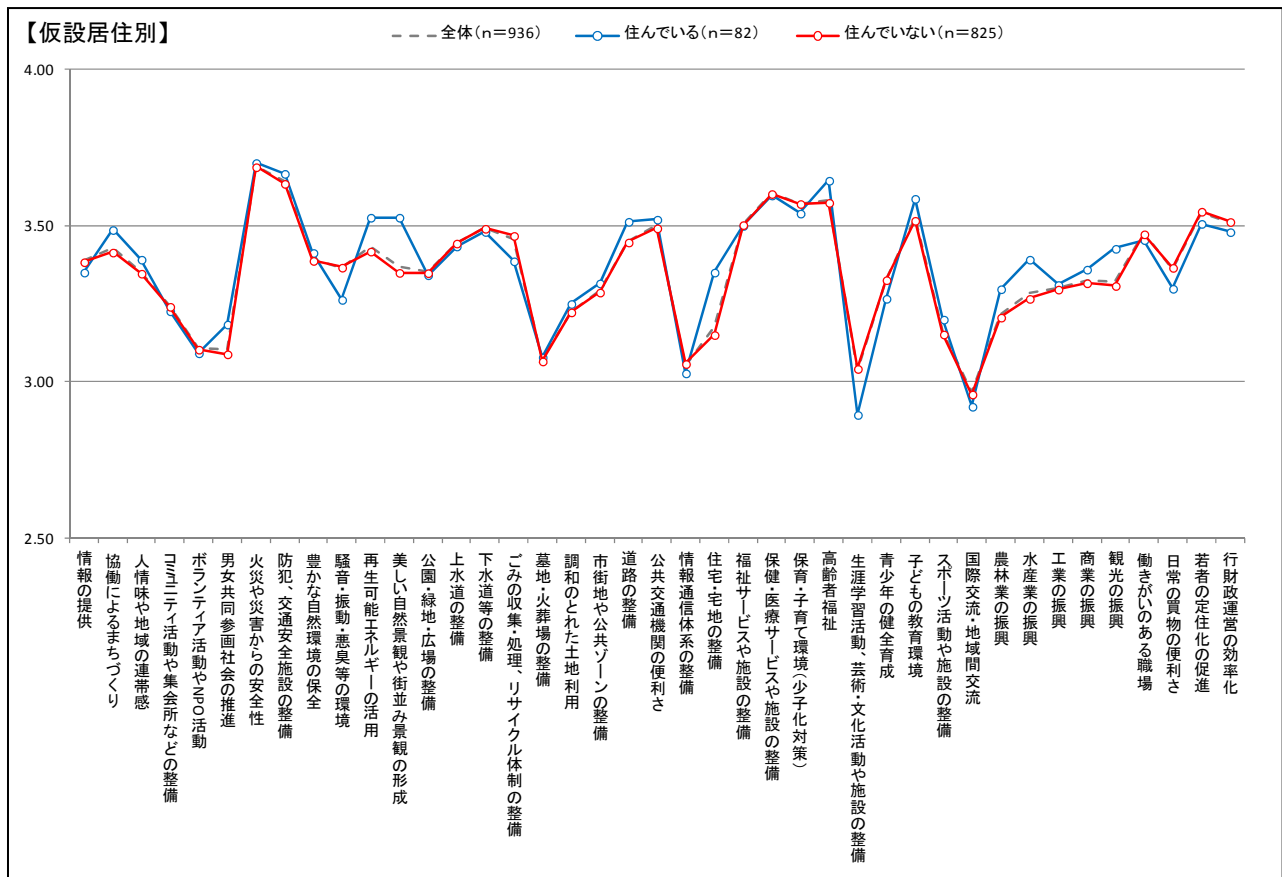
(1)情報の提供	3.39
(2)協働によるまちづくり	3.43
(3)人情味や地域の連帯感	3.35
(4)コミュニティ活動や集会所などの整備	3.24
(5)ボランティア活動やNPO活動	3.11
(6)男女共同参画社会の推進	3.10
(7)火災や災害からの安全性	3.69
(8)防犯、交通安全施設の整備	3.64
(9)豊かな自然環境の保全	3.39
(10)騒音・振動・悪臭等の環境	3.36
(11)再生可能エネルギーの活用	3.43
(12)美しい自然景観や街並み景観の形成	3.37
(13)公園・緑地・広場の整備	3.35
(14)上水道の整備	3.44
(15)下水道等の整備	3.49
(16)ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備	3.46
(17)墓地・火葬場の整備	3.07
(18)調和のとれた土地利用	3.23
(19)市街地や公共ゾーンの整備	3.29
(20)道路の整備	3.45
(21)公共交通機関の便利さ	3.50
(22)情報通信体系の整備	3.05
(23)住宅・宅地の整備	3.17
(24)福祉サービスや施設の整備	3.51
(25)保健・医療サービスや施設の整備	3.60
(26)保育・子育て環境(少子化対策)	3.57
(27)高齢者福祉	3.58
(28)生涯学習活動、芸術・文化活動や施設の整備	3.03
(29)青少年の健全育成	3.33
(30)子どもの教育環境	3.52
(31)スポーツ活動や施設の整備	3.16
(32)国際交流・地域間交流	2.97
(33)農林業の振興	3.22
(34)水産業の振興	3.28
(35)工業の振興	3.30
(36)商業の振興	3.33
(37)観光の振興	3.32
(38)働きがいのある職場	3.47
(39)日常の買物の便利さ	3.36
(40)若者の定住化の促進	3.54
(41)行財政運営の効率化	3.51

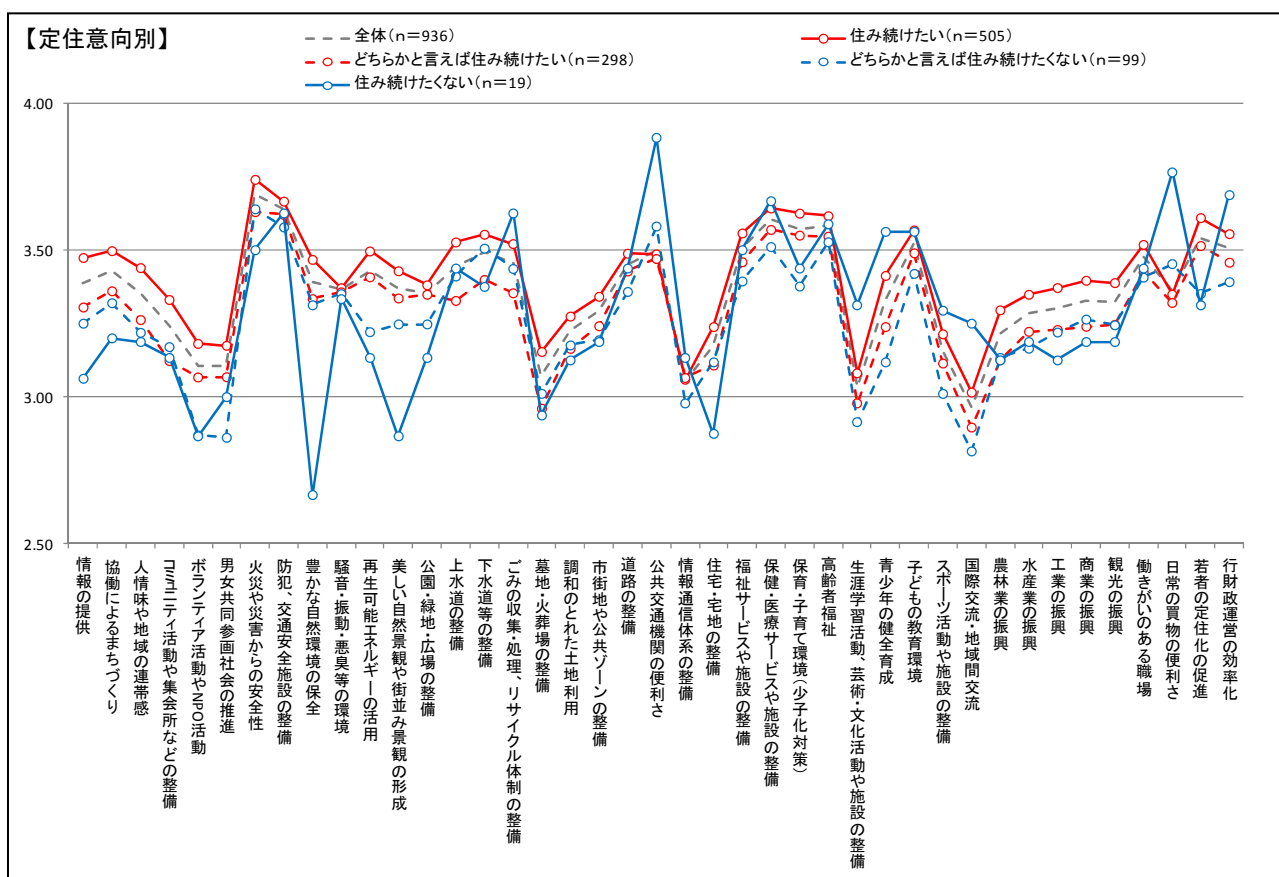
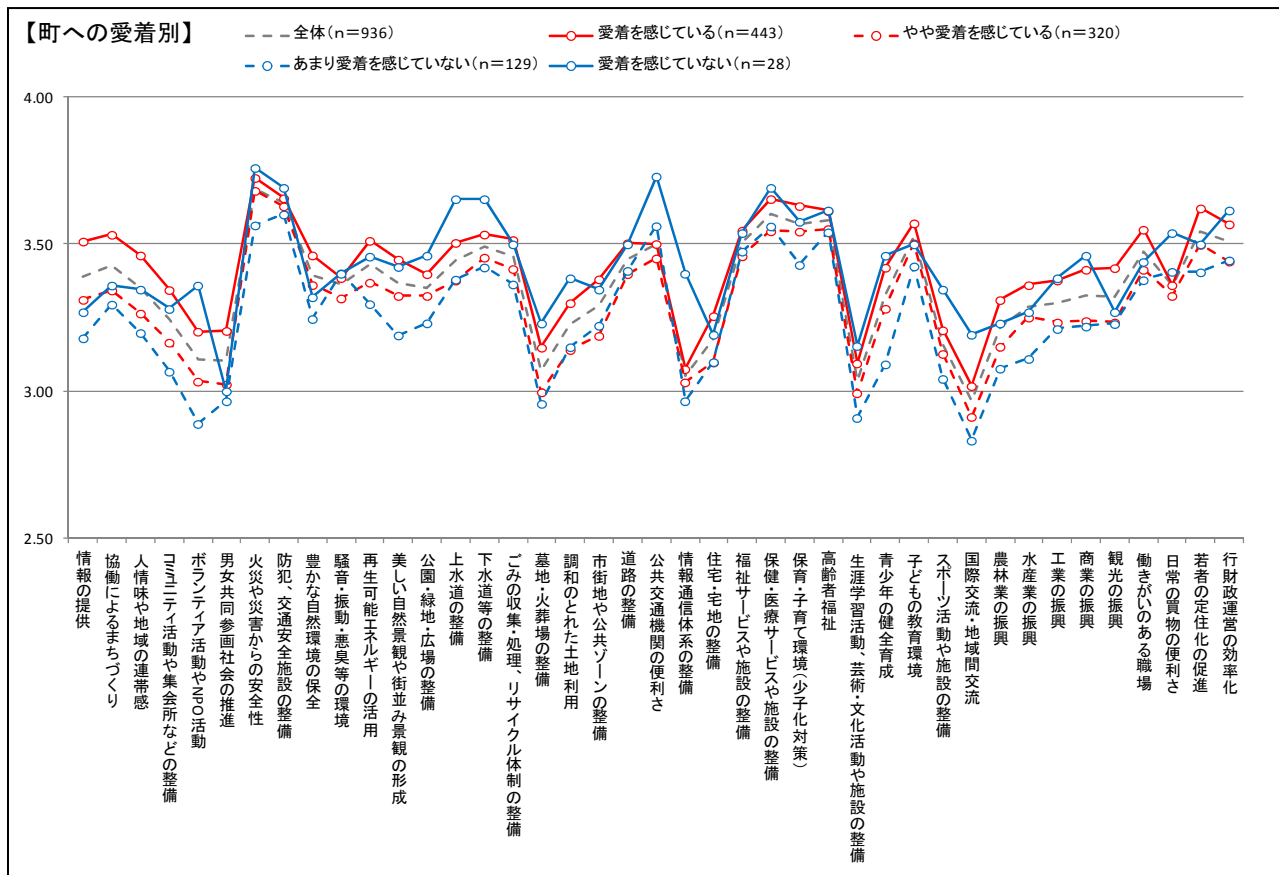


※ (重要でない×1点+やや重要でない×2点+やや重要である×3点+重要である×4点)÷回答数とした指数。2.5を下回ると不要側、2.5を上回ると重要側である。

【クロス集計】







Q4 亶理町の生活環境の満足度×重要度

- ◆ 満足度と重要度の散布図から以下のとおり傾向が読み取れる。

①現状不満側にあり、今後も施策展開の重要度がかなり高い項目

保健・医療・福祉・子育て、若者の定住化、公共交通や道路の整備、商業・観光振興、働きがいのある職場、再生可能エネルギー、行財政運営の効率化

②現状は満足側にあるが、今後も施策展開の重要度がかなり高い項目

安全性確保、教育環境、福祉サービス・施設の整備

③現状はかなり満足側にあるが、今後も施策展開の重要度が高い項目

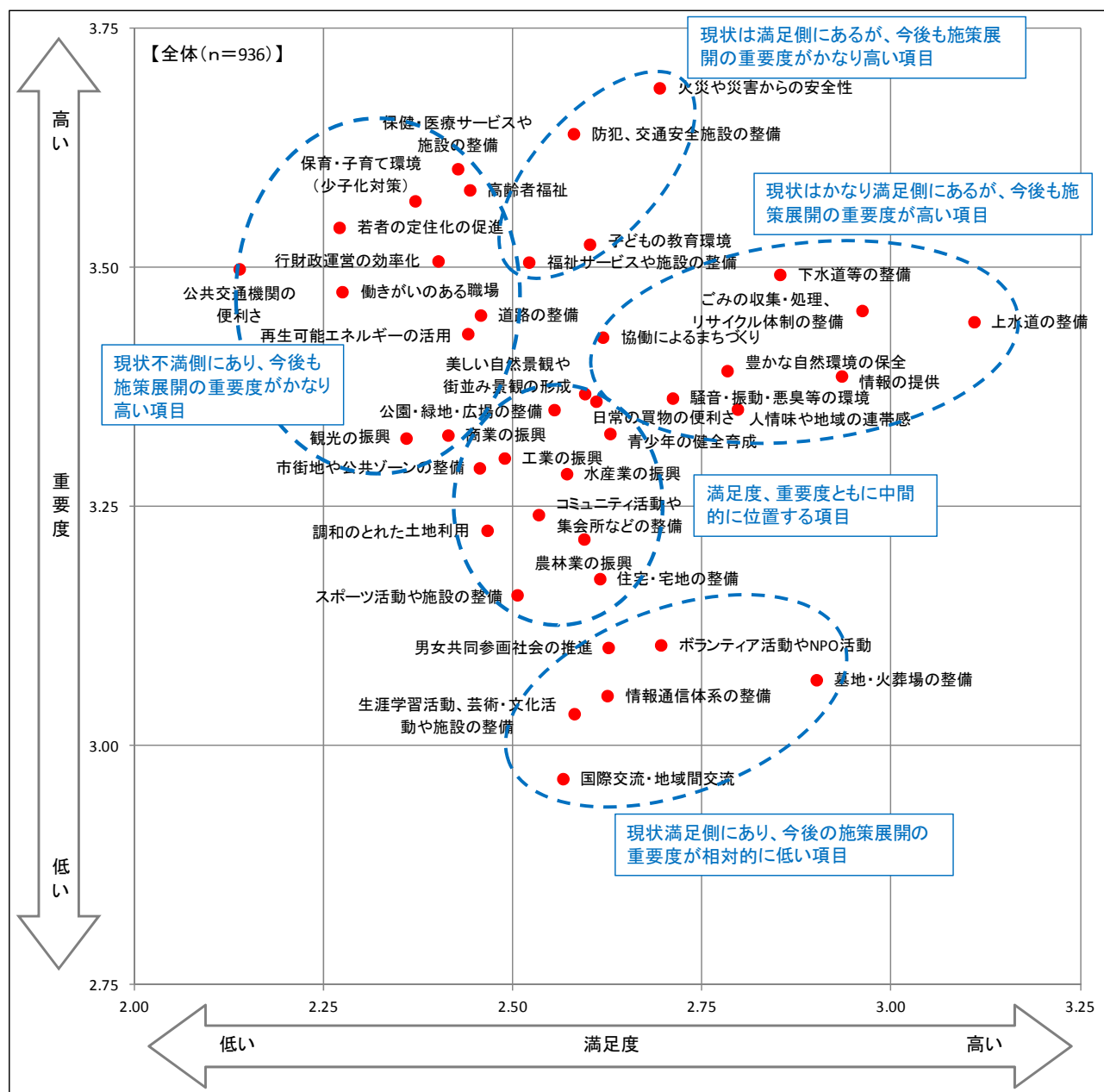
上下水道・ごみ処理、自然環境の保全、騒音・振動・悪臭等の環境、地域の連帯、協働のまちづくり、情報提供

④満足度、重要度ともに中間的に位置する項目

公園緑地、景観形成、買物の便利さ、青少年健全育成、工業・農業・水産業振興、市街地・公共ゾーン整備、土地利用、住宅・宅地整備、スポーツ活動、コミュニティ活動

⑤現状満足側にあり、今後の施策展開の重要度が相対的に低い項目

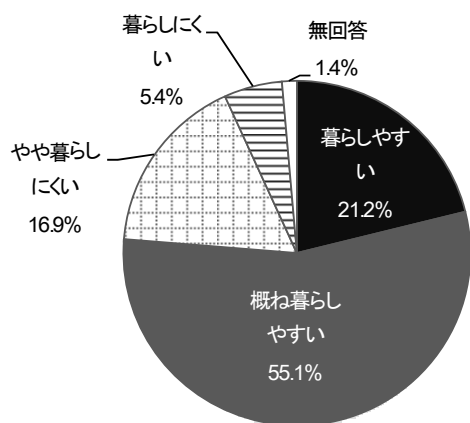
ボランティア、男女共同参画、国際交流、生涯学習活動、情報通信体系、墓地・火葬場



Q5 亘理町の暮らしやすさ

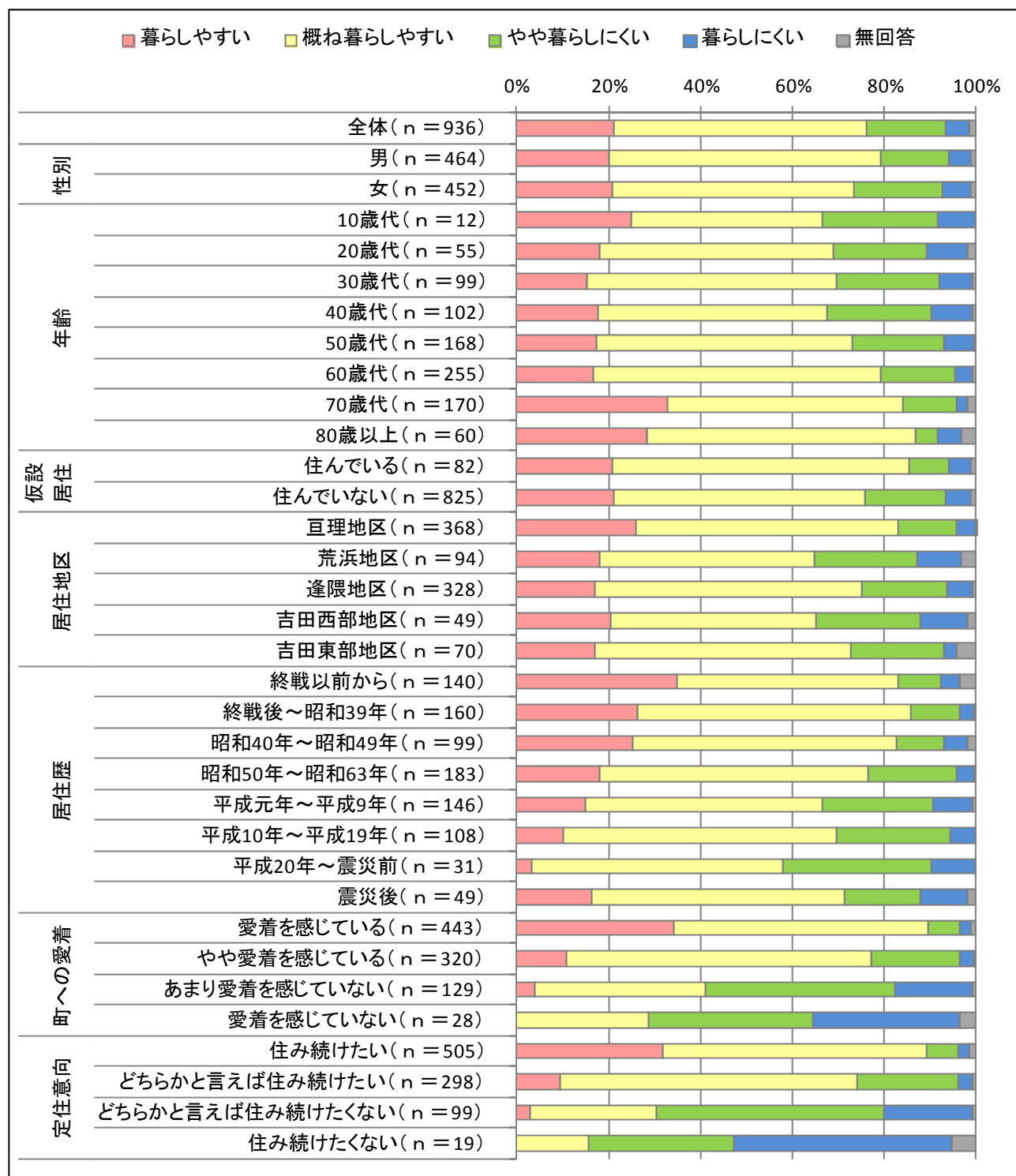
- ◆ 「暮らしやすい」「概ね暮らしやすい」の合計は 76.3%と概ね 4 人に 3 人は暮らしやすいと感じている。
- ◆ 暮らしやすいという評価は、70 歳代、80 歳以上で高く、20～40 歳代でやや低い。また、居住歴でみると居住歴が長くなるほど、亘理町への愛着でみると愛着が強いほど、定住意向でみると定住意向が強いほど、亘理町の暮らしやすさの評価が高まる傾向が明らかである。
- ◆ 地区別にみると、亘理地区で評価が高い。

【単純集計】



No.	カテゴリー名	n	%
1	暮らしやすい	198	21.2%
2	概ね暮らしやすい	516	55.1%
3	やや暮らしにくい	158	16.9%
4	暮らしにくい	51	5.4%
	無回答	13	1.4%
	全体	936	100.0%

【クロス集計】



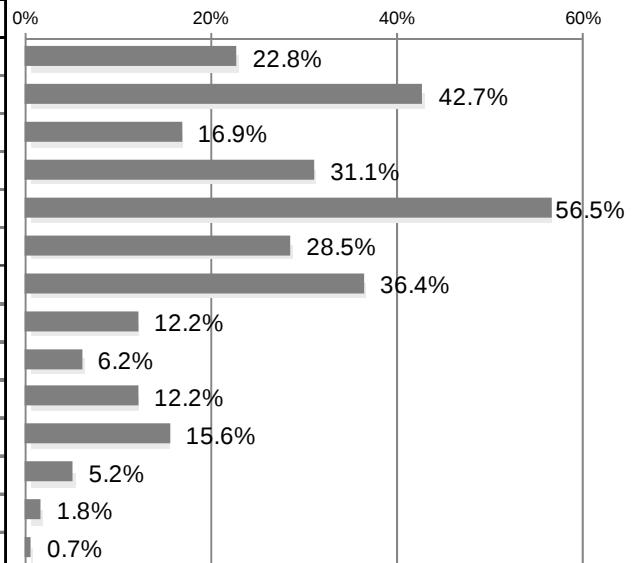
(3) 亶理町のこれからのまちづくり

Q6 将来の町の姿(3 つまで)

- ◆ 「健康福祉のまち」が 56.5%で最も多く、「快適住環境のまち」が 42.7%、「若者定住のまち」が 36.4%で続く。また、「商工業のまち」31.1%、「子育て支援のまち」28.5%も約 3 割の選択率となっている²。
- ◆ 10～20 歳代は「快適住環境のまち」「子育て支援のまち」「若者定住のまち」の選択率が高く、70～80 歳代は「健康福祉のまち」の選択率が高い。また、70 歳代は「若者定住のまち」の選択率も高くなっている。40～60 歳代は町全体と概ね同様の傾向となっており、30 歳代では「子育て支援のまち」が強く望まれている。
- ◆ 亶理地区、逢隈地区、荒浜地区は町全体と概ね同様の傾向だが、荒浜地区で「観光・交流のまち」の選択率が町全体に比較して高い。吉田西部地区は「快適住環境のまち」の選択率が、吉田東部地区は「商工業のまち」の選択率が高い。
- ◆ 定住意向別にみると、住み続けたい層、どちらかと言えば住み続けたい層及びどちらかと言えば住み続けたくない層は町全体の傾向とほぼ等しく、住み続けたくない層で「商工業のまち」の選択率が高くなっている。

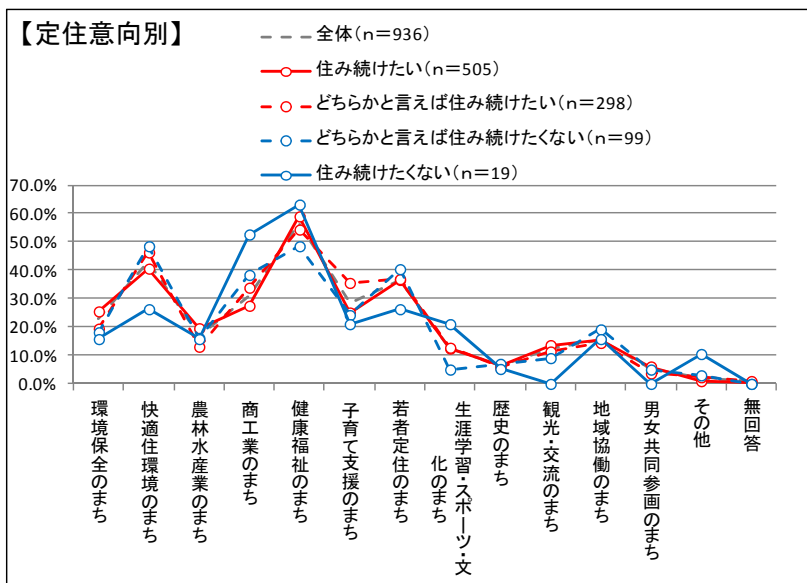
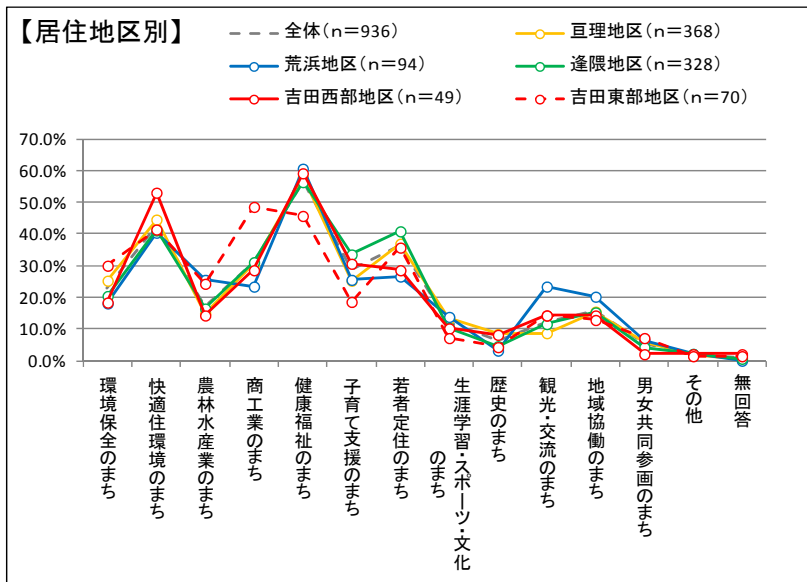
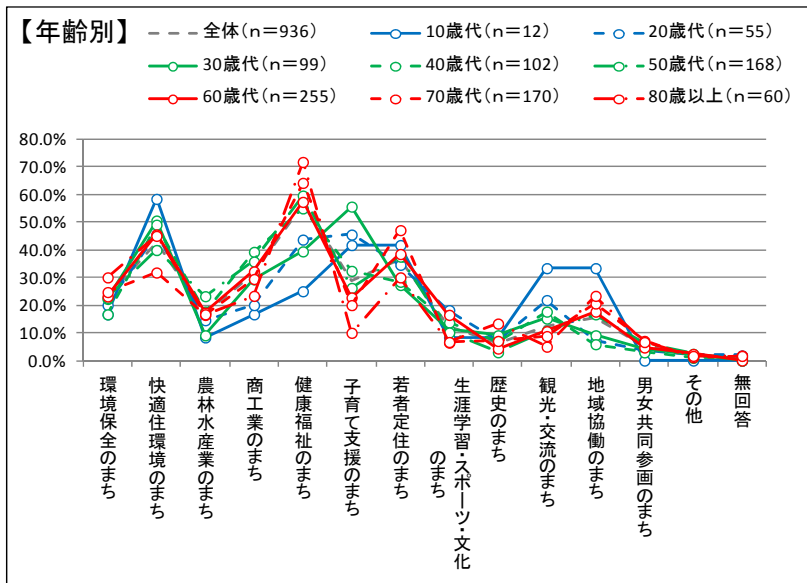
【単純集計】

No.	カテゴリー名	n	%
1	環境保全のまち	213	22.8%
2	快適住環境のまち	400	42.7%
3	農林水産業のまち	158	16.9%
4	商工業のまち	291	31.1%
5	健康福祉のまち	529	56.5%
6	子育て支援のまち	267	28.5%
7	若者定住のまち	341	36.4%
8	生涯学習・スポーツ・文化のまち	114	12.2%
9	歴史のまち	58	6.2%
10	観光・交流のまち	114	12.2%
11	地域協働のまち	146	15.6%
12	男女共同参画のまち	49	5.2%
13	その他	17	1.8%
	無回答	7	0.7%
	全体	936	-



² 平成 21 年調査では、選択肢に違いはあるものの、「健康福祉のまち」34.4%、「快適住環境のまち」24.2%となっており、トップ 2 の座は変わらない（平成 21 年調査は「1 つだけ選択」）。

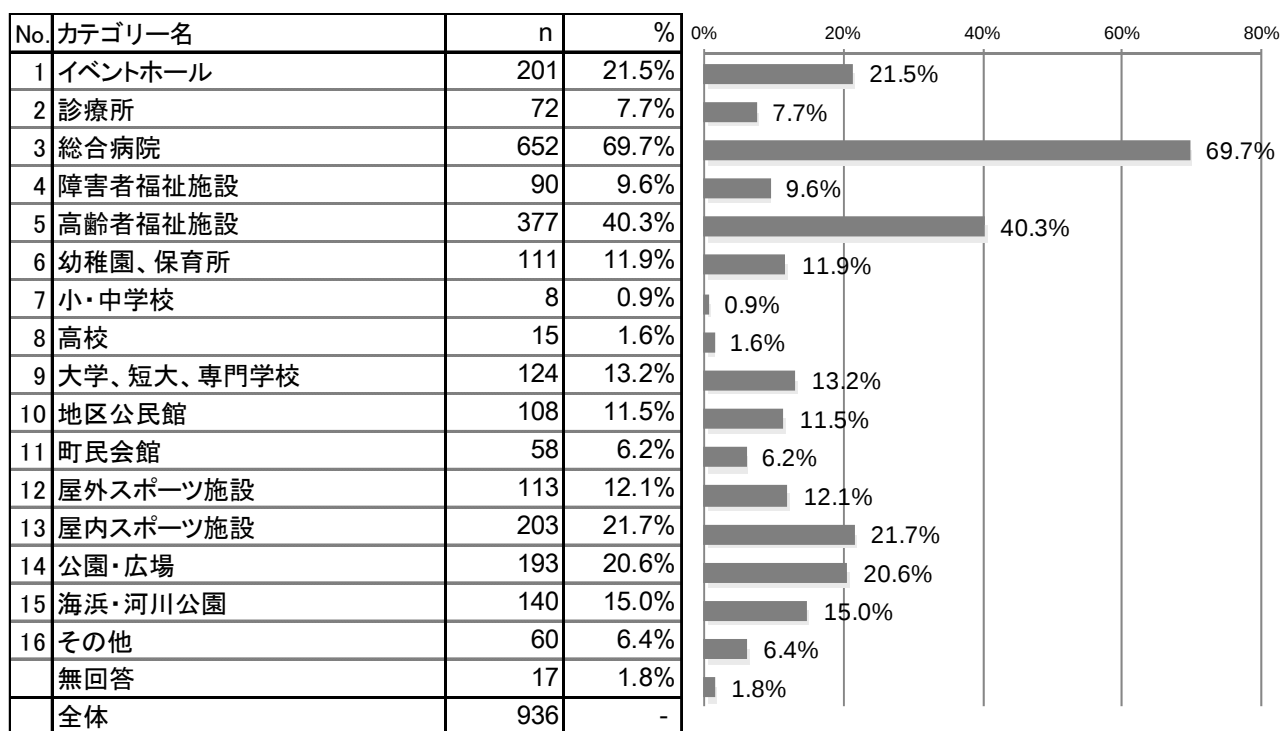
【クロス集計】



Q7 整備・充実してほしい公共施設(3 つまで)

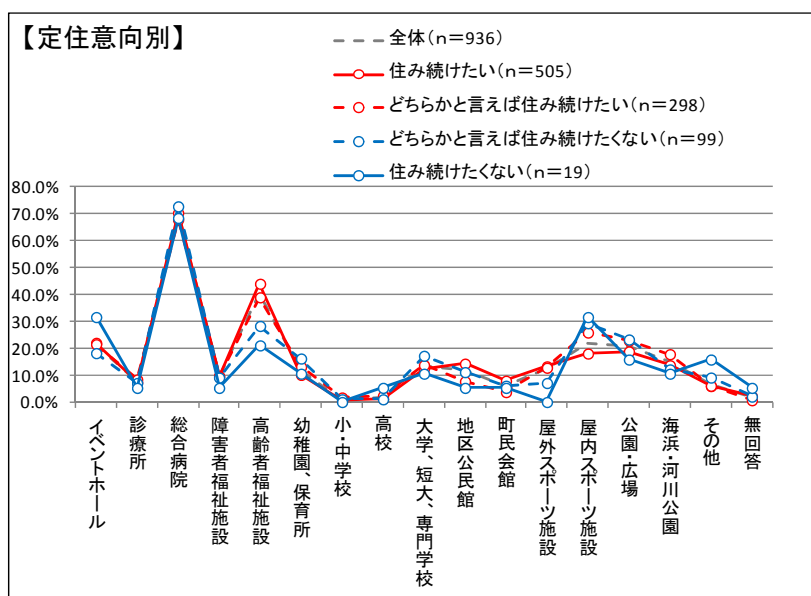
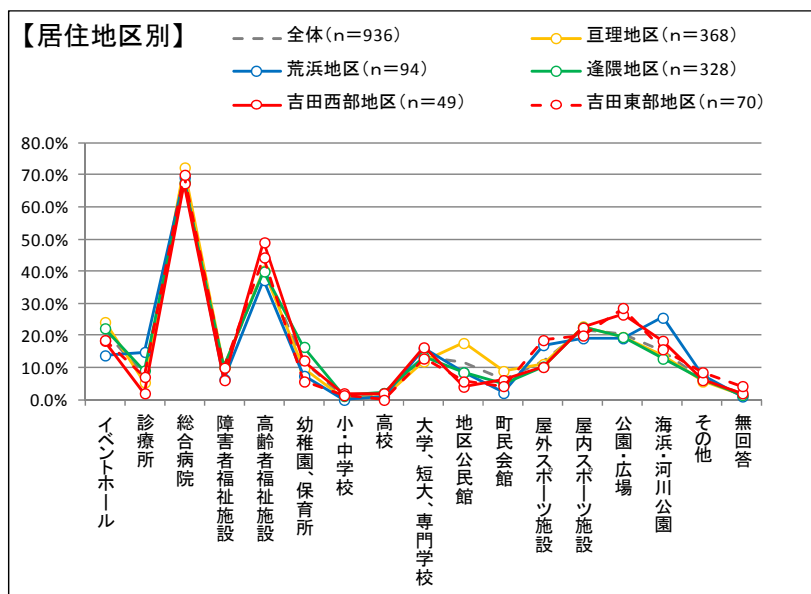
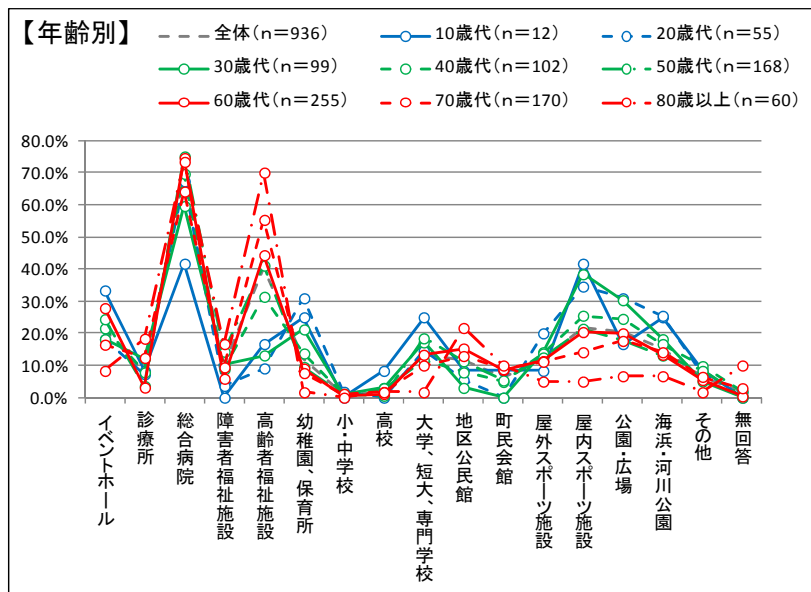
- ◆ 「総合病院」が 69.7%と突出しており、「高齢者福祉施設」40.3%が続く。その他の施設の選択率は概ね 2 割以下である³。
- ◆ 10～20 歳代は「総合病院」のほかに「屋内スポーツ施設」「公園・広場」や「幼稚園・保育所」の選択率が高い。70 歳代及び 80 歳以上では「総合病院」と「高齢者福祉施設」が突出しており、30 歳代は「総合病院」のほかに「屋内スポーツ施設」や「公園・広場」の選択率が高い。40～60 歳代は概ね町全体の傾向と同様である。
- ◆ 亘理地区で「地区公民館」、荒浜地区で「海浜・河川公園」、吉田西部地区及び吉田東部地区で「公園・広場」を求める意向が町全体と比較してやや強いものの、地域別の大きな差はない。
- ◆ 定住意向別にみても、どちらかと言えば住み続けたくない層及び住み続けたくない層で「屋内スポーツ施設」の選択率が町全体と比較してやや高いものの、特に意向の強い施設はみられない。

【単純集計】



³ 平成 21 年調査では、選択肢に違いはあるものの、「総合病院」73.8%、「高齢者福祉施設」39.7%、「公設市場」18.2%、「イベントホール」15.9%（選択率 15%以上のもの）となっており、今回の調査と比較すると、「総合病院」の選択率が下がり、「屋内スポーツ施設」「海浜・河川公園」などの選択率が上がっている。

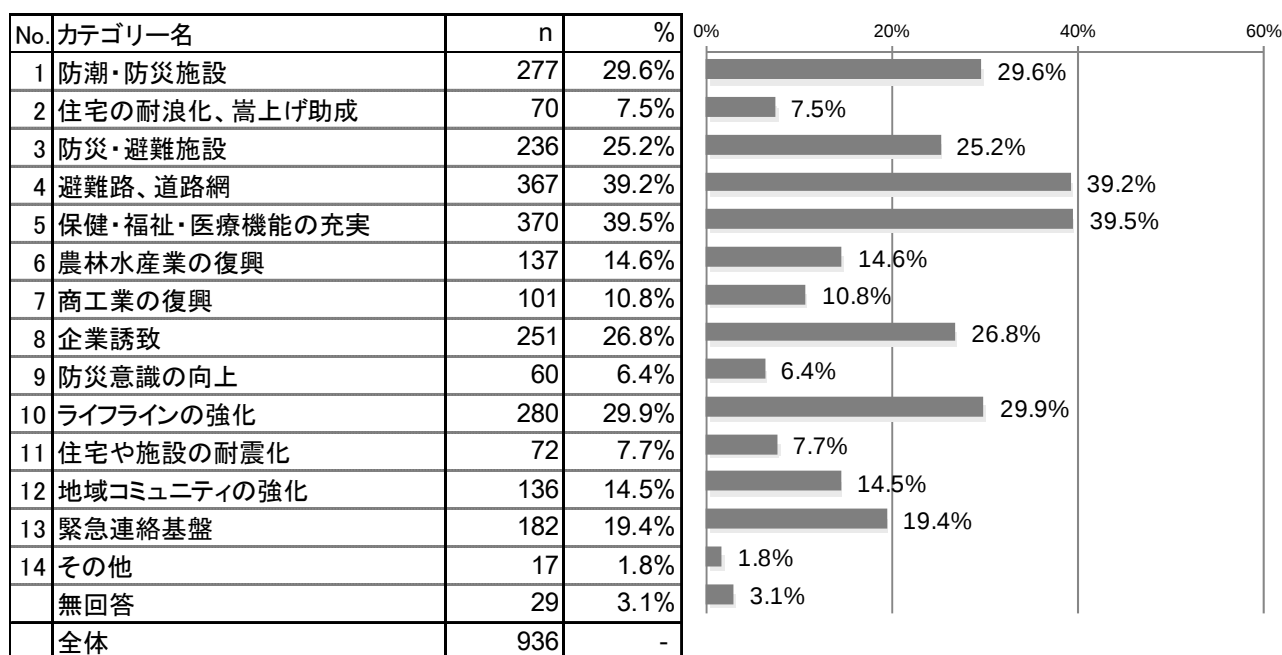
【クロス集計】



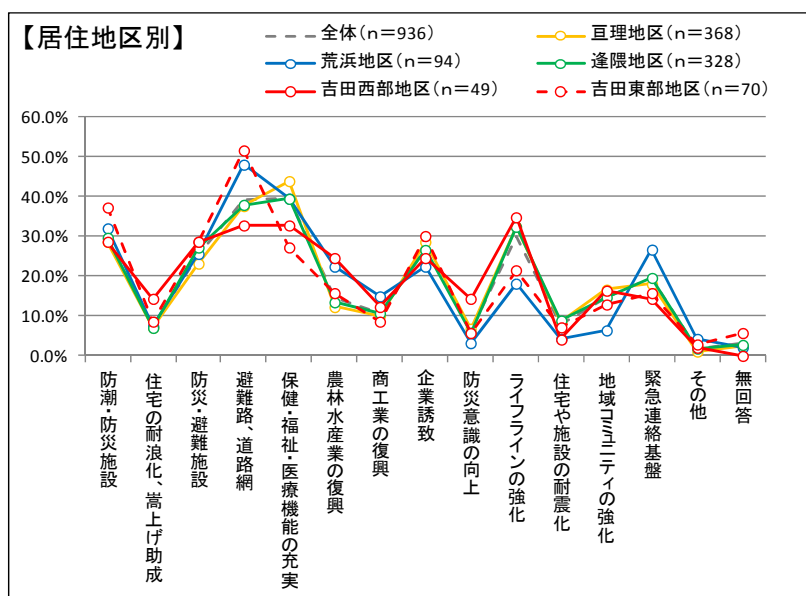
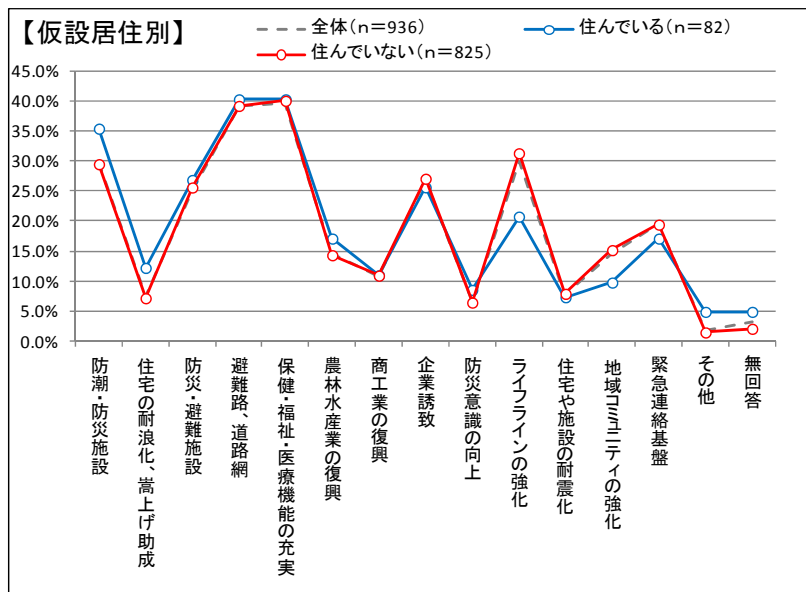
Q8 復旧・復興や生活再建に重要なこと(3 つまで)

- ◆ 「避難路、道路網」「保健・福祉・医療機能の充実」の選択率が約 4 割、「ライフラインの強化」「防潮・防災施設」の選択率が約 3 割、「企業誘致」「防災・避難施設」の選択率が約 2.5 割とその他の項目に比較して高い。
- ◆ 仮設住宅に住んでいる層で「防潮・防災施設」や「住宅の耐浪化、嵩上げ助成」の意向がやや高くなっているが、仮設住宅に住んでいる・住んでいないで、要望に大きな差異はない。
- ◆ 荒浜地区で「避難路、道路網」「農林水産業の復興」「緊急連絡基盤」、吉田西部地区で「住宅の耐浪化、嵩上げ助成」「農林水産業の復興」「ライフラインの強化」、吉田東部地域で「防潮・防災施設」「避難路、道路網」を求める意向が町全体と比較してやや高い。亘理地区、逢隈地区はほぼ町全体の傾向と同じである。

【単純集計】



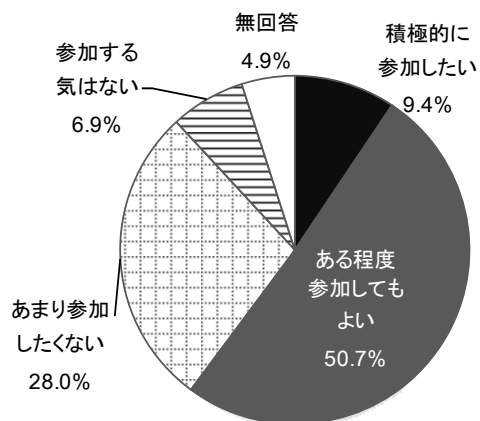
【クロス集計】



Q9 まちづくりへの参加と参加したい活動(いくつでも)

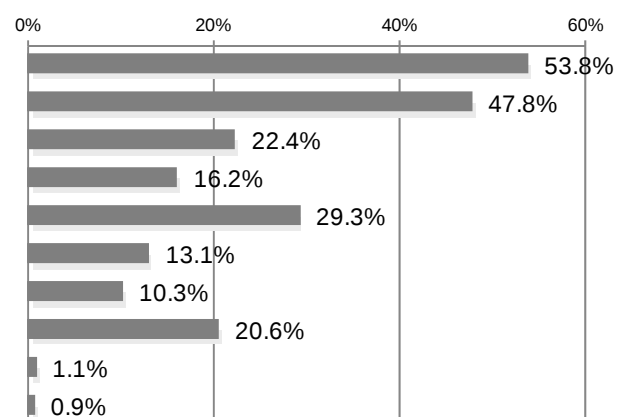
- ◆ 「積極的に参加したい」「ある程度参加してもよい」の合計は 60.1%で、「あまり参加したくない」「参加する気はない」の合計 34.9%を大きく上回る。
- ◆ 参加意向が高いのは、男女別では男性、年齢別では 40～70 歳代、仮設住宅に住んでいる層、定住意向の高い層である。
- ◆ 参加したい活動は「町内会行事や地域活動」53.8%、「環境活動」47.8%の選択率が高く、「まちづくり活動」29.3%が続く。

【単純集計】

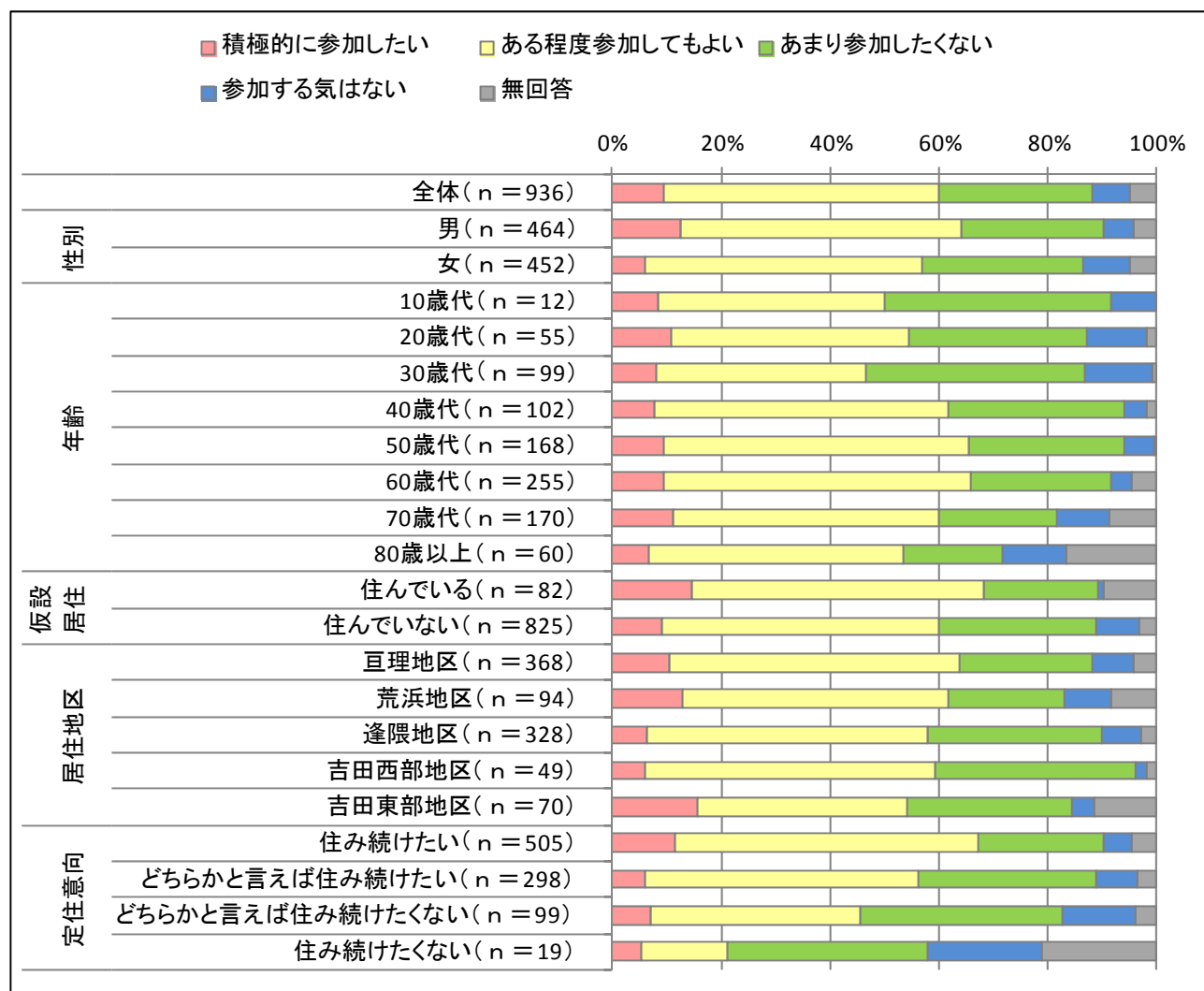


No.	カテゴリー名	n	%
1	積極的に参加したい	88	9.4%
2	ある程度参加してもよい	475	50.7%
3	あまり参加したくない	262	28.0%
4	参加する気はない	65	6.9%
	無回答	46	4.9%
	全体	936	100.0%

No.	カテゴリー名	n	%
1	町内会行事や地域活動	303	53.8%
2	環境活動	269	47.8%
3	福祉活動	126	22.4%
4	子育て支援活動	91	16.2%
5	まちづくり活動	165	29.3%
6	情報発信活動	74	13.1%
7	委員活動	58	10.3%
8	協働で計画を立てる活動	116	20.6%
9	その他	6	1.1%
	無回答	5	0.9%
	非該当	373	
	全体	563	-



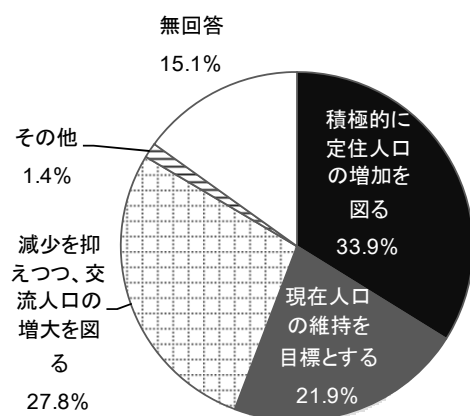
【クロス集計】



Q10 亶理町の将来人口

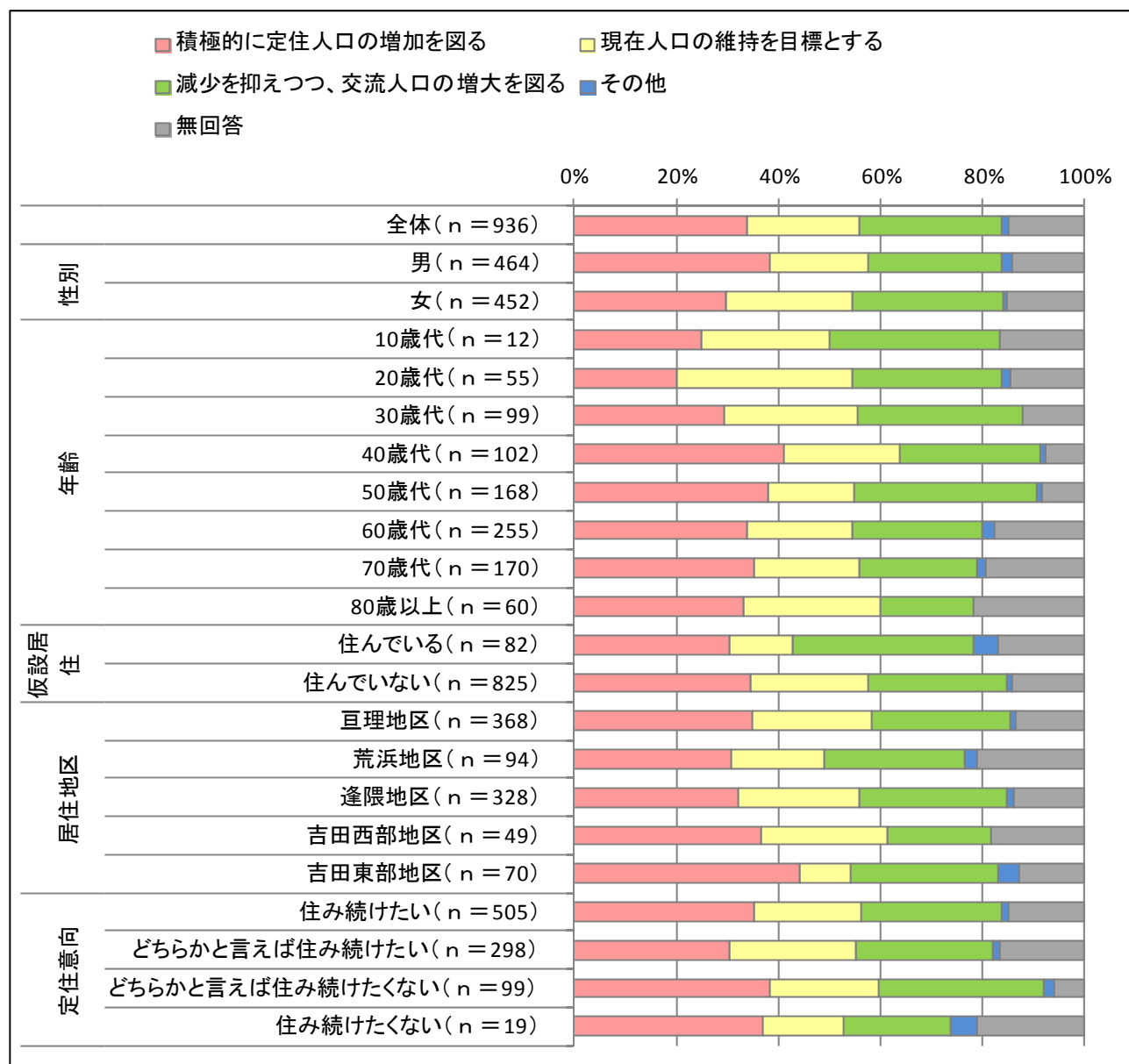
- ◆ 「積極的に定住人口の増加を図るべきである」が 33.9%で最も多い。「減少を抑えつつ、交流人口の増加を図る」が 27.8%、「現在人口の維持を目標とする」が 21.9%を占め、回答は割れている。
- ◆ 「積極的に定住人口の増加を図るべきである」は、男性、40 歳代以上、吉田東部地区で選択率が高い。「現在人口の維持を目標とする」は 20 歳代で選択率が高く、「減少を抑えつつ、交流人口の増大を図る」は 10 歳代、30 歳代、50 歳代や仮設住宅に住んでいる層で選択率が高い。

【単純集計】



No.	カテゴリー名	n	%
1	積極的に定住人口の増加を図る	317	33.9%
2	現在人口の維持を目標とする	205	21.9%
3	減少を抑えつつ、交流人口の増大を図る	260	27.8%
4	その他	13	1.4%
	無回答	141	15.1%
	全体	936	100.0%

【クロス集計】

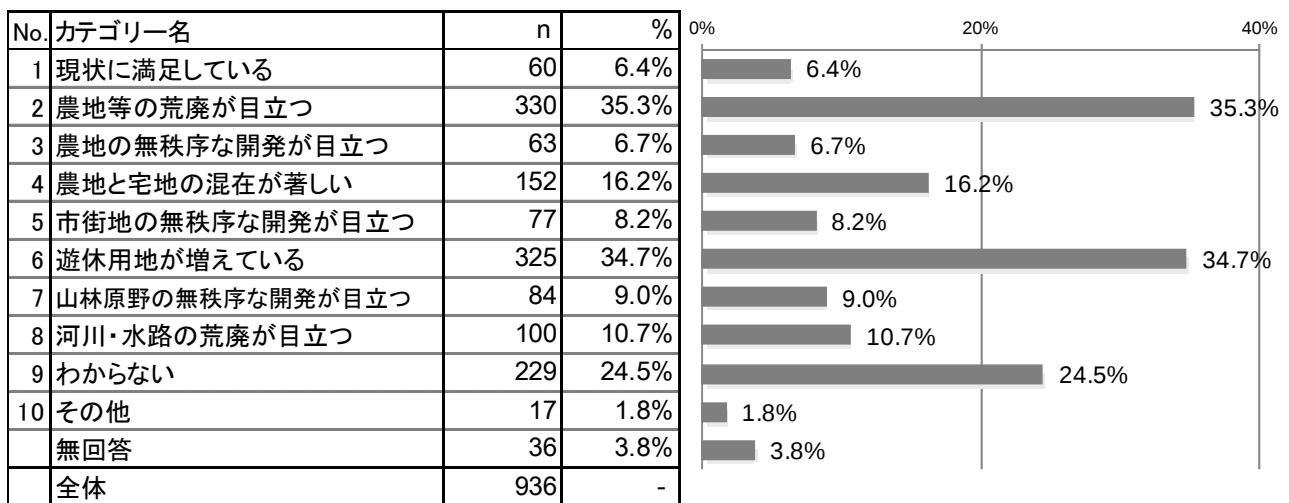


(4) 亶理町の土地利用

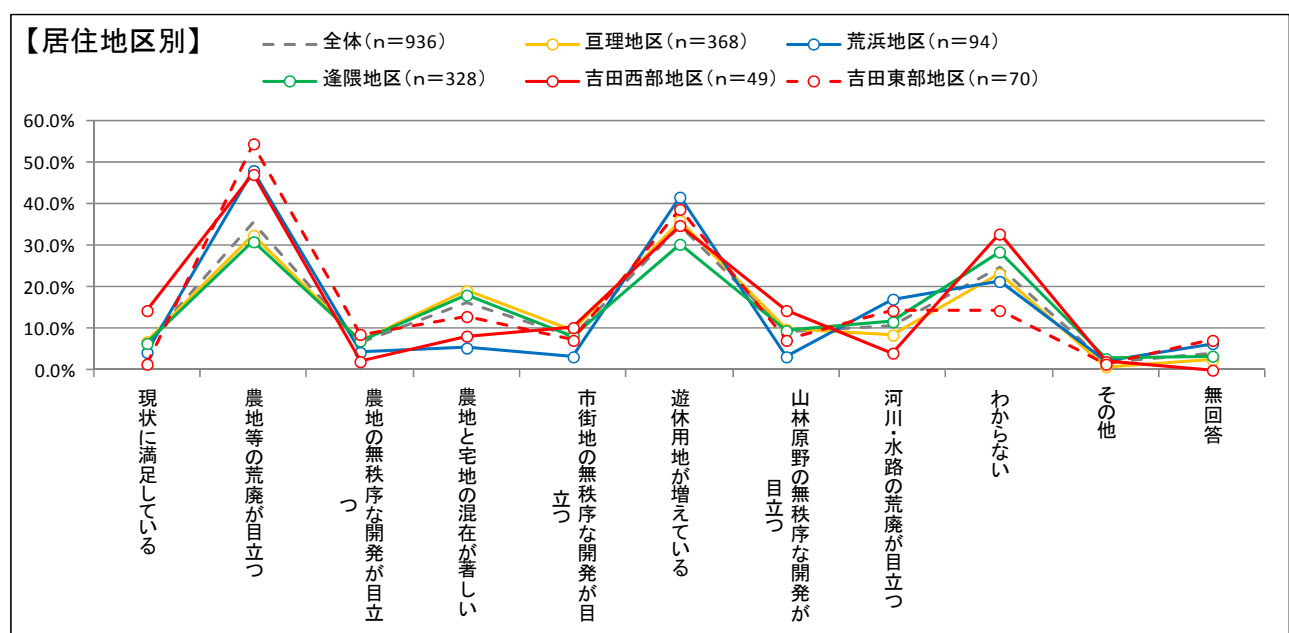
Q11 土地利用の評価(2 つまで)

- ◆ 「農地等の荒廃が目立つ」35.3%、「遊休用地が増えている」34.7%が目立って多く、低・未利用地の増加が問題と捉えられている。
- ◆ 荒浜地区、吉田西部地区、吉田東部地区で「農地等の荒廃が目立つ」の選択率が高く、荒浜地区では「遊休用地が増えている」の回答も目立つ。亶理地区、逢隈地区は町全体と概ね同様の傾向である。

【単純集計】



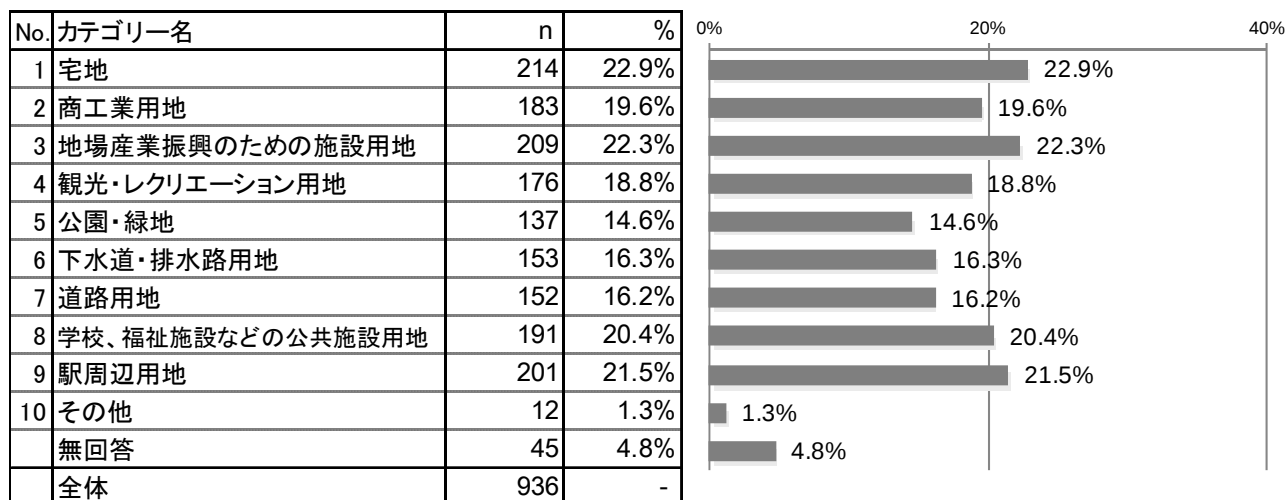
【クロス集計】



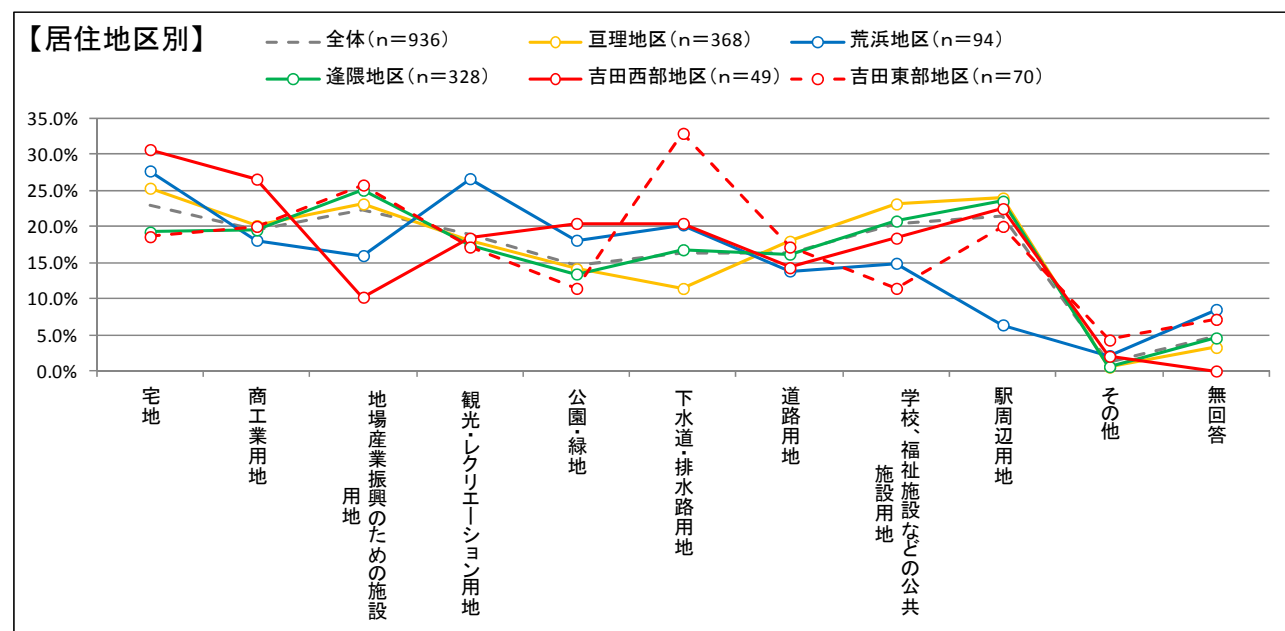
Q12 優先的に整備すべき用地(2つまで)

- ◆ 回答が割れており、「宅地」22.9%、「地場産業振興のための施設用地」22.3%が上位となっているものの、最下位の「公園・緑地」でも選択率14.6%を占める。
- ◆ 荒浜地区では「宅地」「観光・レクリエーション用地」の選択率が高い。吉田西部地区では「宅地」「商工業用地」の選択率が高く、吉田東部地区では「下水道・排水路用地」の選択率が特に高い。亘理地区、逢隈地区は回答に特に目立った特徴はない。

【単純集計】



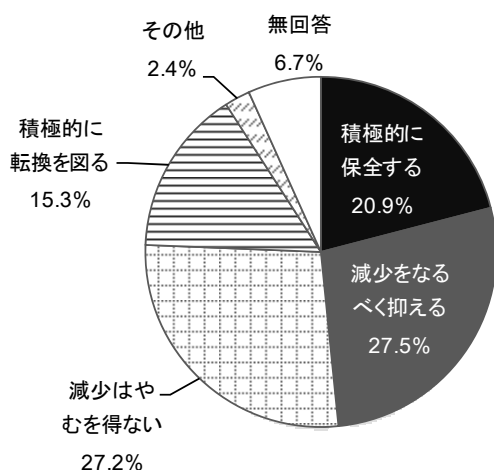
【クロス集計】



Q13 農地の今後の土地利用

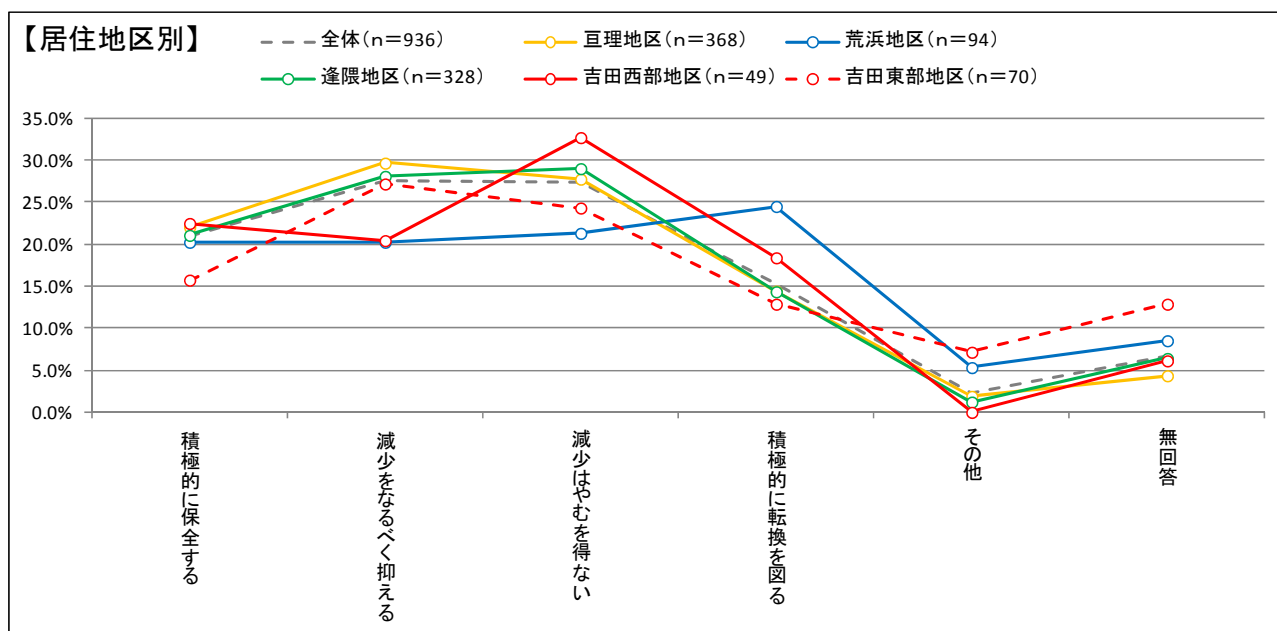
- ◆ 農地については「減少をなるべく抑える」27.5%、「減少はやむを得ない」27.2%が拮抗している。次に続くのは「積極的に保全する」20.9%で、「積極的に転換を図る」も15.3%を占めている。
- ◆ 荒浜地区では「積極的に転換を図る」の選択率が高く、吉田西部地区では「減少はやむを得ない」の選択率が高い。また、亘理地区、逢隈地区、吉田東部地区は回答に特に目立った特徴はない。

【単純集計】



No.	カテゴリ名	n	%
1	積極的に保全する	196	20.9%
2	減少をなるべく抑える	257	27.5%
3	減少はやむを得ない	255	27.2%
4	積極的に転換を図る	143	15.3%
5	その他	22	2.4%
	無回答	63	6.7%
	全体	936	100.0%

【クロス集計】



(5) 自由意見傾向まとめ

■ 少子高齢化

- ◆ 子育て支援に対する意見が一番多い。具体的には、「保育園や児童館の整備」「学童保育などのソフト面の強化」「中学生もしくは高校生までの医療費の無償化」「教育・学校のレベルの向上」などが挙げられている。
- ◆ 高齢者・障害者福祉への意見も多い。特に「入所できる施設の整備」「介護支援」の要望が多く出されており、将来（老後）を不安視する意見も散見する。

■ まちづくりへの提言

- ◆ 突出して多いのは「安全・安心で住み良いまちづくり」であり、次いで「仙台都市圏であるという地の利を生かす、ベッドタウンという方向性も視野にいれる」というものであり、「自然や海を生かすまちづくり」「住んでみたいまち」「戻って来たいまち」が続く。

■ 定住人口

- ◆ 人口対策、特に若者の定住人口の増加を図るべきとの意見が多い。対策としては「企業誘致」や「就業の場の確保」が強く望まれており、加えて「まちの魅力の向上」や「子育て支援」などが挙げられている。

■ 生活基盤整備(ハード)

- ◆ 意見の多い順に、「道路（歩道整備や付帯施設、街路樹などの緑化、街灯等含む）」「公園」「あらゆる世代が体を動かせるスポーツ施設」「商業施設（ショッピングモール、もしくはスーパーなど）」「病院」「宅地造成」「上下水道」となっている。
- ◆ その他の意見としては「町民が集うことのできる町民会館」「駅舎へのエレベーターの設置」「防災無線の改善」「スマートインターチェンジ」「役場庁舎（元の位置、もしくは移転）」「町内外の人が遊べる（公共）施設」「町営墓地、火葬場」「図書館や学習スペース」などが挙げられている。
- ◆ いずれの整備にしても、将来を見据えた計画が重要という意見が複数出されている。

■ 生活環境の改善(ソフト)

- ◆ 「ごみのポイ捨てやごみ処理に対する改善要望」の他、「騒音」「害虫」「大気汚染」等への対策も望まれている。
- ◆ ハード整備とも繋がるが、「医療サービスの向上」「買い回りしやすい移動手段の確保」「誰もが利用しやすい公園としてのルール作り」等が強く望まれている。
- ◆ 安全安心に寄与するものとして、「運転マナーの向上」が多く挙げられている。復興関連の大型車の運転が荒く危険であるというものの他、子どもや学生のマナー教育への要望も出されている。

■ 公共交通機関

- ◆ 公共交通機関の利便性の向上に対する意見が大変多い。特に高齢者などの交通弱者からの意見が大半を占める。
- ◆ 町民バスのさざんか号に対する意見が一番多く、具体的には「路線の拡充」「運行本数の増加」「土日祝日の運行」等が挙げられている。
- ◆ 鉄道（常磐線）については、「快速電車の運行」「町民バスとの乗り継ぎ強化」「駅舎の改善」「運行時間の延長（最終電車が早い）」等の意見が出されている。
- ◆ 亘理駅、逢隈駅、浜吉田駅の利便性の向上や、それによるまちの活性化が望まれている。また、亘理駅については「東西の往来の利便性の向上」を望む声も多い。

■ 観光振興

- ◆ 観光に力を入れ、交流人口の増加を図るべきという意見が多い。
- ◆ 特に意見が多く出されたのは「鳥の海（温泉）の再開」である。これは主要観光施設というだけでなく、町民の憩いの場や交流の場として捉えられている。
- ◆ 「海水浴場の再開」を望む声も多い。その他、「なんでも良いので目玉となるものを作る、設定する」「通過交通だけにならないように、休憩施設や道の駅を整備する」なども出されている。
- ◆ イベントについては、「新しいものの他、古くからのものも大事にする」「大型イベントが開催できる施設の整備」「祭りなどの継承」などの意見が出されている。

■ 産業振興

- ◆ 農業、工業、商業、漁業の振興が望まれている。
- ◆ 特に農業と漁業については後継者不足が問題視されており、対策として「町内に限らず若者の参画を促すための支援」「法人化」「新たな作物や養殖の導入」などの意見が出されている。
- ◆ 工業や商業の振興のためには、企業誘致や6号沿線の開発などが望まれている。

■ 震災復興

- ◆ 「計画や被災者支援の見直し、各種要望」と「一日も早い復興を」の意見が同数程度となっている。なお、「他の市町村に比べ復興のスピードが早い」という意見も散見する。
- ◆ 要望としては、土地利用に対するものが一番多い。具体的には「耕作放棄地や（被災による）未利用地の利用計画」「危険な建築物等の除却」「住宅の無秩序・無計画な建築に対する危惧」等である。
- ◆ 災害公営住宅については、早期に整備すべきという意見と計画の見直しが必要という意見が、ほぼ同数出されている。
- ◆ 「避難道路の早期整備」が望まれている。
- ◆ 「シェルターや避難所の整備」の他、既存の公園等を避難所に指定することが望まれている。
- ◆ 「太陽光などの再生可能エネルギーの導入」を提案する意見も多い。

■ コミュニケーション

- ◆ 地域住民同士のコミュニケーションの希薄化に対する意見として、「住民が集まる場の確保・整備」が望まれている。
- ◆ 元からの住民と、特に震災後に移転してきた住民との間の意思疎通が必要であるとの意見も複数出されている。
- ◆ コミュニケーションを強化する方策として、あいさつ運動やボランティアなどで、気軽に交流できる仕組みづくりが必要との意見もある。

■ 住民参画、行政への意見

- ◆ 役場職員や議員への意見、情報公開の強化に対する要望が複数出されている。
- ◆ 計画づくり等への参加の場があれば意見を述べたいという声がある。
- ◆ 20代～30代の回答者から、「若者がまちづくりへ意見を言える機会や場所を提供して欲しい」という要望が複数出されている。